

日本地質学会 *News*
Vol.27 No.6 June 2024



一般社団法人日本地質学会

The Geological Society of Japan

理事

任期：2022年6月11日から2024年総会

会長（代表理事）	岡田 誠（茨城大学）	笠間友博（箱根町立箱根ジオミュージアム）
		神谷奈々（同志社大学）
副会長	杉田律子（科学警察研）	亀田 純（北海道大学）
	星 博幸（愛知教育大学）	川村紀子（海上保安庁海上保安大学校）
常務理事	中澤 努（産業技術総合研究所）	北村有迅（鹿児島大学）
副常務理事	緒方信一（中央開発（株））	清川昌一（九州大学）
執行理事	内尾優子（国立科学博）	黒柳あずみ（東北大学学術資源研究公開センター）
	内野隆之（産業技術総合研究所）	桑野太輔（千葉大学）
	尾上哲治（九州大学）	小松原純子（産業技術総合研究所）
	加藤猛士（川崎地質（株））	斎藤 眞（産業技術総合研究所）
	狩野彰宏（東京大学）	佐々木和彦（佐々木技術士事務所）
	亀高正男（大日本ダイヤコンサルタント（株））	沢田 健（北海道大学）
	小宮 剛（東京大学）	下岡和也（愛媛大学）
	坂口有人（山口大学）	菅沼悠介（国立極地研究所）
	高嶋礼詩（東北大学）	高野 修（石油資源開発（株））
	辻森 樹（東北大学）	西 弘嗣（福井県立大学恐竜研究所）
	松田達生（工学気象研究所）	野田 篤（産業技術総合研究所）
	矢部 淳（国立科学博）	細矢卓志（中央開発（株））
	山口飛鳥（東京大学大気海洋研究所）	保柳康一（信州大学）
理事	青矢睦月（徳島大学）	堀 利栄（愛媛大学）
	芦 寿一郎（東京大学）	松田博貴（熊本大学）
	天野一男（東京大学空間情報科学研究センター）	三田村宗樹（大阪公立大学）
	磯崎行雄（東京大学）	道林克禎（名古屋大学）
	大友幸子（山形大学）	矢島道子（東京都立大学）
	大橋聖和（山口大学）	山路 敦（京都大学）
		山本啓司（鹿児島大学）

監事

任期：2020年5月23日から2024年総会

岩部良子（応用地質（株））
山本正司（山本司法書士事務所）



一般社団法人日本地質学会

〒101-0032 東京都千代田区岩本町 2-8-15 井桁ビル

電話 03-5823-1150 FAX 03-5823-1156（振替口座 00140-8-28067）

e-mail: main@geosociety.jp ホームページ <http://geosociety.jp>

日本地質学会 *News*

Vol.27 No.6 June 2024

The Geological Society of Japan News

一般社団法人日本地質学会

〒101-0032 東京都千代田区岩本町2-8-15 井桁ビル 6F

編集委員長 松田達生

TEL 03-5823-1150 FAX 03-5823-1156

main@geosociety.jp (庶務一般)

journal@geosociety.jp (編集)

http://www.geosociety.jp

Contents

第11回ショートコース「微化石」受講者募集中です……1

公募……2

富山大学学術研究部都市デザイン学系教員公募/東京大学理学系研究科地球惑星科学専攻助教公募/北海道大学大学院理学研究院地球惑星科学部門地球惑星システム科学分野教員の公募

各賞・研究助成……2

令和7年度科学技術分野の文部科学大臣表彰受賞候補者の推薦/関西エネルギー・リサイクル科学研究振興財団助成事業募集/第65回東レ科学技術賞および東レ科学技術研究助成の候補者推薦

学協会・研究会報告……4

第12回学生のヒマラヤ野外実習ツアー実施報告 (吉田 勝ほか)

博物館・ジオパークで地球を学ぼう! (30) ……6

東北大学総合学術博物館: 東北大学が114年にわたり収集したコレクション243万点を収蔵 (高嶋礼詩・根本 潤・鹿納晴尚)

CALENDAR……8

2024年「地質の日」イベント報告……9

街中ジオ散歩in Tokyo「身近な地形・地質から探る麻布の歴史と湧水」(細矢卓志・橋本智雄・矢部 淳)

表紙紹介……10

北イタリアのロソヴェローナ (アンモナイトを伴う赤色石灰岩石材) (貴治康夫)

第22回ジュニアセッション: 参加校募集……11

地質学雑誌: 新しい論文が公開になりました……12

2024年度会費督促請求に関するお知らせ……13

学会記事……14

2023年度第3回理事会議事録

2023年度第9回執行理事会議事録

2023年度第10回執行理事会議事録

2023年度第11回執行理事会議事録

印刷・製本: 日本印刷株式会社 東京都豊島区東池袋4-41-24

第11回ショートコース 「微化石」

受講者募集中です。

日程: 2024年7月21日(日)

zoomによるオンライン講義です。

(午前) 微化石一般と放散虫

講師: 松岡 篤 (新潟大)

(午後) 微化石データ活用の最前線

講師: 林 広樹 (島根大)



申込締切: 7月12日(金)

公募

教員・職員公募等の求人ニュース原稿につきましては、採用結果をお知らせいただけますようお願い致します。



富山大学学術研究部 都市デザイン学系教員公募

募集人員：助教 1名（任期5年，再任可）
所属：学術研究部都市デザイン学系（都市デザイン学部地球システム科学科担当）
専門分野：地殻進化化学（物質科学的解析から、地震・火山活動などの災害評価や軽減、地殻の進化・形成過程などを研究する分野）
担当教育部等：都市デザイン学部地球システム科学科，大学院理工学研究科（博士前期課程，博士後期課程）
担当授業科目：

(1) 学部担当授業科目：基礎地球セミナー，一般地質学，地史学，地球科学実験，野外実習Ⅰ，野外実習Ⅱ，地質調査法実習，専攻セミナー，卒業論文等

(2) 大学院担当授業科目：地球生命環境科学ゼミナールⅠ，地球生命環境科学ゼミナールⅡ

(3) 教養教育科目

採用予定年月日：令和6年11月1日以降のできるだけ早い時期

応募資格：(1) 博士若しくはPh.D.の学位を有する（又は着任時までに取得見込みである）若手研究者であること (2) 科学研究費等外部資金の獲得に意欲があること (3) 地域貢献活動等，全学的活動に積極的に寄与できること (4) 地域及び関連産業の活性化に意欲的であること (5) 英語で講義できることが望ましい (6) 入試業務に携わる意思があること (7) 教養教育に貢献できること

応募締切 令和6年7月25日（木）（必着）
応募状況によっては，応募締切を延長する場合があります

問い合わせ先 〒930-8555 富山市五福3190
国立大学法人富山大学学術研究部都市デザイン学系

（都市デザイン学部地球システム科学科）佐野 晋一

電話 076-411-4893

E-mail：ssano@sus.u-toyama.ac.jp

提出書類等公募の詳細は，下記よりご確認ください。

<https://www.u-toyama.ac.jp/outline/other-info/employ/#sus>

東京大学理学系研究科 地球惑星科学専攻助教公募

1. 公募人員：助教 1名
2. 公募分野：地球環境進化学または臨象地球科学分野
(<http://www-gbs.eps.s.u-tokyo.ac.jp/>)

3. 応募資格：着任時に博士の学位を有すること。堆積学的なフィールド調査を主体とし，人間を取り巻く環境の変動や地球環境の進化に関する教育研究を展開できる方。大学院生，学部生の指導ができるだけの日本語能力を有すること（外国人の場合，着任後5年以内にこのレベルの日本語能力を習得することが望ましい）。

4. 着任時期：2025年4月以降のできるだけ早い時期

5. 業務内容：地球生命圏科学に関する研究，および大学院・学部（地球惑星物理学科，地球惑星環境学科）における演習や実習等の担当

変更の範囲：配置換，兼務及び出向を命じることがある（意に反して命じられることは原則ない。詳細は東京大学教員の就業に関する規定第4条による。）

6. 応募締切：2024年7月31日（水）必着
詳細は，本学の下記のページをご覧ください。

<https://www.s.u-tokyo.ac.jp/ja/recruit/?id=1655>

北海道大学大学院理学研究院 地球惑星科学部門地球惑星 システム科学分野教員の公募

募集人員：助教1名

所属：（雇入れ直後）大学院理学研究院 地球惑星科学部門 地球惑星システム科学分野（変更の範囲）大学の定める場所

専門分野：火成岩岩石学，火山学

職務内容：（雇入れ直後）(1) 地球惑星システム科学関連の学部・大学院教育（全学教育を含む）に係る教育研究に従事する (2) 本分野の教員と協力し，大学運営に参画する（変更の範囲）大学の定める業務

応募資格：(1) 博士号を取得していること（採用予定日までに学位取得見込みの場合も含む）(2) フィールドをベースとした教育・研究ができる方

採用期間：2025年4月1日以降のできるだけ早い時期

試用期間：あり（3ヶ月）

任期：5年。なお再任審査により任期を更新する場合があります（再任の場合の任期は5年，1回を限度とする）。また，再任後の任期中ないし任期終了時に，審査を経て任期のないポストへ移行する場合があります。

提出期限：2024年9月30日（月）必着

提出先・問い合わせ先：

〒060-0810 札幌市北区北10条西8丁目
北海道大学大学院理学研究院地球惑星システム科学分野

山田敏弘

電話：011-706-3424 FAX：011-706-3424

電子メール：pbyamada@sci.hokudai.ac.jp

提出書類ほか公募の詳細は，下記よりご確認ください。

<https://www.hokudai.ac.jp/introduction/recruit/koubo/>

各賞・ 研究助成



日本地質学会に寄せられた候補者の募集・推薦依頼等をご案内致します。

令和7年度科学技術分野の 文部科学大臣表彰受賞候補者の 推薦

1. 表彰対象

(1) 科学技術賞

1) 開発部門 我が国の社会経済，国民生活の発展向上等に寄与する画期的な研究開発若しくは発明であって，現に利活用されているものを行った個人若しくはグループ又はこれらの者を育成した個人

2) 研究部門 我が国の科学技術の発展等に寄与する可能性の高い独創的な研究又は発明を行った個人又はグループ

3) 科学技術振興部門 研究開発の社会的必要性に関する研究等の分野において，科学技術の振興に寄与する活動を行い，顕著な功績があったと認められる個人又はグループ

4) 技術部門 中小企業，地場産業等において，地域経済の発展に寄与する優れた技術を開発した個人若しくはグループ又はこれらの者を育成した個人

5) 理解増進部門 青少年をはじめ広く国民の科学技術に関する関心及び理解の増進等に寄与し，又は地域において科学技術に関する知識の普及啓発等に寄与する活動を行った個人又はグループ

(2) 若手科学者賞

萌芽的な研究，独創的視点に立った研究等，高度な研究開発能力を示す顕著な研究業績をあげた40歳未満の若手研究者個人（ただし，出産及び育児により研究に専念できない期間があった場合は，42歳未満の若手研究者個人）

(3) 研究支援賞

科学技術の発展や研究開発の成果創出に向けて，高度で専門的な技術的貢献を通じて研究開発の推進に寄与する活動を行い，顕著な功

績があったと認められる個人又はグループ
2. 受賞候補者の推薦について

本表彰は、文部科学省研究振興局長が推薦依頼を発出した機関（推薦機関）からの推薦（機関推薦）のみを受け付けています。なお、科学技術賞（研究部門）及び若手科学者賞については、日本国籍を有し海外を拠点に研究活動等を行う者を推薦する場合に限り、個人による推薦（推薦機関の長、部局長又はこれらに準ずる者からの推薦）を受け付けていません（自薦は不可）。

3. 推薦締切

令和6年7月22日（月）（学会締切：7月8日（月））

4. 書類送付先

〒100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-2
文部科学省研究振興局振興企画課奨励室
電話番号：03-5253-4111（内戦4071）
詳しくは、https://www.mext.go.jp/b_menu/boshu/detail/000029536.htm

関西エネルギー・リサイクル 科学研究振興財団助成事業募集

公益財団法人 関西エネルギー・リサイクル科学研究振興財団は、エネルギー・リサイクル・環境や総合防災科学の研究に従事する研究者を支援するため、助成事業の募集をしています。

助成の趣旨：Aエネルギー・リサイクル分野：人間活動と地球環境の調和を図りながら、社会・経済の持続的な発展を将来にわたって続けていく上で、電気エネルギーをはじめとする各種エネルギーの供給利用や資源リサイクル分野の研究活動を一層充実・強化していく必要があります。また、人類の喫緊の課題である地球温暖化問題の解決を目指す上で、電気エネルギーをはじめとする各種エネルギーの供給・利用、再生可能エネルギー、省エネルギーや環境・リサイクルに関する技術やシステム等の一層の発展が大きな鍵を握っていると期待されています。この観点から、エネルギー・リサイクル分野における研究等に対する助成を行います。B総合防災科学分野：地震等の異常な外力による自然災害、なかでも人口や社会インフラが集中する都市で起こる災害は、社会構造や人間行動様式等により災害形態や被害規模が大きく異なるため、人文・社会科学的視点での研究が重要です。また、自然災害の発生を完全に防止することは不可能であるため、被害の軽減化・極小化を図ることが重要です。その上で、軽度な損傷が生じたとしても、その主機能は失われない、あるいは、早期に機能が回復するハードやシステムを形成することが大切となります。被害を受けても早期に復旧する電力等のライフラインや社会・情報システムがその具体例と言えるでしょう。この観点から、防災、減災等、幅広い視点での総合防

災科学分野の研究等に対する助成を行います。

助成種類：①研究助成 ②国際交流活動助成（研究者海外渡航）③国際交流活動助成（海外研究者招聘）④研究成果の出版助成 ⑤研究発表会等の開催助成（※②、⑤はオンライン開催、④は指定期間内掲載済の一部、も対象とする）

分野：A. エネルギー・リサイクル分野、B. 総合防災科学分野

対象：主に関西地域（北陸3県含む）の大学院、大学の学部、短期大学、高等専門学校、大学附置研究所、大学共同利用機関に勤務する研究者（②、④は博士後期課程の大学院生を含む）

助成内容：①1件100万円以下。A11件、B3件
②1件20万円以下。A4件、B1件 ③1件50万円以下。A・B併せて2件 ④1件10万円以下。A5件、B3件 ⑤1件40万円以下。A・B併せて2件
応募締切：① 8月31日（土）／②、③、④、⑤ 7月31日（水）同財団のホームページから電子申請による申込みができる。

詳細、お問い合わせ等：

公益財団法人 関西エネルギー・リサイクル科学研究振興財団

e-mail：info@krf.or.jp TEL：06-7506-9068

第65回東レ科学技術賞および 東レ科学技術研究助成の 候補者推薦

1. 東レ科学技術賞

候補者の対象：(1) 学術上の業績が顕著な方 (2) 学術上重要な発見をした方 (3) 効果が大きい重要な発明をした方 (4) 技術上重要な問題を解決して、技術の進歩に大きく貢献した方 年齢は問いません。（注）この推薦を受けた候補者は次年度も選考の対象となります。

賞：1件につき、賞状、金メダルおよび賞金500万円（2件以内）

締切：令和6年10月10日（木）必着（学会締切：9月12日）

2. 東レ科学技術研究助成

候補者の対象：国内の研究機関において自らのアイデアで萌芽の研究に従事しており、かつ今後の研究の成果が科学技術の進歩、発展に貢献するところが大きいと考えられる若手研究者（原則として推薦時45歳以下）。本助成が重要かつ中心的な研究費と位置づけられ、これにより申請研究が格段に進展すると期待されることが要件。申請の基となった研究が海外で行われていても差し支えありません。

助成金額：総額1億3千万円。1件3千万円程度まで10件程度とします。

締切：令和6年10月10日（木）必着（学会締切：9月12日）

*推薦をご希望の方は、上記学会締切までに

執行理事会宛に応募書類をお送り下さい。

*各推薦書要旨は、ホームページからもダウンロードできます。

<http://www.toray-sf.or.jp>

問い合わせ先

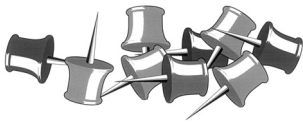
公益財団法人東レ科学振興会

〒103-0021

東京都中央区日本橋本石町3丁目3番16号（日本橋室町ビル）

Tel：(03) 6262-1655 Fax：(03) 6262-1901

<http://www.toray-sf.or.jp>



第12回学生のヒマラヤ野外実習ツアー実施報告

吉田 勝^{1,2}・酒井哲弥³・Ashok Sigdel²・Champak B. Silwal²・在田一則⁴・Bishal N. Upreti⁵
¹ ゴンドワナ地質環境研究所, ² ネパール国立トリブバン大学トリチャンドラキャンパス,
³ 島根大学総合理工学部, ⁴ 北大博物館, ⁵ ネパール科学技術アカデミー

第12回学生のヒマラヤ野外実習ツアー (SHET-12) は2024年3月4・5日～3月20日、日本発着16 / 17日間、中西部ネパールヒマラヤを中心に実施された。参加者は日本各地の9大学及びネパールトリブバン大学の学生・大学院生35人と市民3人で、指導・引率者は日ネの教員4人で、チームの総勢は42人であった (写真1)。

カトマンズ到着は中国国際航空利用者26人が3月5日昼、キャセイ航空利用者8人が5日の深夜であった。6日午前中はトリブバン大学トリチャンドラキャンパスで予習セミナー、教室主任ダカル教授の座長により、SHETの概要 (吉田・Upreti)、ヒマラヤの成り立ちと生い立ち (Bishal N.Upreti)、SHET野外実習ツアーのハイライト (Ashok Sigdel)、カトマンズ盆地の地形・地質と地層記録からの巨大地震の再来間隔の推定 (酒井哲弥)、ヒマラヤ野外実習ツアーの危険と対策 (吉田勝) の講義と質疑応答がすべて英語で行われた。午後は5グループに別れ、同数のトリブバン大学生らに案内されてカトマンズ市西部のスワヤンブナート寺院見学ツアーを行なった。

7日からは野外実習ツアー、コースと日程は例年と同じで、貸し切りバスでカトマンズーポカラームクチナートーポカラータンセーリンピニーカトマンズを10日間で辿り (図1, 2, 表1)、テチスヒマラヤ帯、高ヒマラヤ帯、低ヒマラヤ帯、亜ヒマラヤ帯、ガンジス沖積帯の構成地質体及び境界断層を観察した。テチスヒマラヤ帯と高ヒマラヤ帯は徒歩とバスで、ほかは全てバスで移動した。テチス帯では好天のため、カリガンダキ河沿いのテチス層群の露頭はよく観察できたが、一方高標高地帯には積雪が多く、例年良いスケッチができたダブトン尾根東斜面の見事な複横臥褶曲が殆ど観察できなかった。一方テチスヒマラヤ帯と高ヒマラヤ帯の境界断層STDSでは、道路拡張工事のために道路沿いに新露頭が現れ、よい観察ができた。ここではテチス層群の熱変成石灰質岩が片麻状花崗岩と明瞭な線で接触しているのが観察された。境界は平滑でなくイレギュラーで滑り面も断層、断裂もなく密着しており、貫入境界と見られたことはYoshida et al. (2004, 19th HKT) の報告を明確に支持するものと特筆される。

野外ツアーからカトマンズに着後の2日

間、トリチャンドラキャンパスで半日、サマリーセミナーを行なった。ここでは参加者全員の英語による報告と質疑応答を行った。翌

日は丸1日、5グループに分かれてトリブバン大学生らに案内されて市内・郊外の見学会を行なった。

ツアー期間中天気はおおむね良好で参加者の健康状態に大きな問題はなく、実習は支障なく行なわれた。ただし、野外ツアーの中ごろから終わりにかけて10人前後の参加者に風邪症状がみられ、投薬、食事制限などで対応したほか、高熱を発した学生1人はポカラの病院で治療した。また、野外ツアー2日目、コロナで持病が悪化した学生1人については家族と緊密な連絡の下に、当日深夜にポカラからガイドを呼び寄せて翌日の3月9日早朝にガイドを付き添わせてポカラー～カトマンズに送り、10日にネパール航空の直行便で帰国させた。

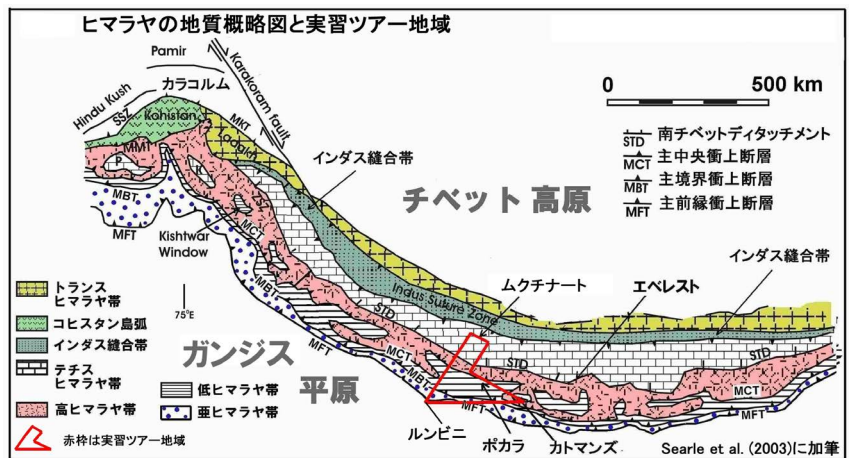


図1. ヒマラヤの地質概念と実習地域 Himalayan geology and the exercise area.



図2. 実習地域の地質概要 (DMG, 1982)、実習コースと日程Geologic outline, tour course and night halts



写真1. ボカラ郊外セティ河の辺りで SHET-12 team on the Seti riverside, Pokhara

SHET-12の参加者数は例年のほぼ2倍であった。そのため、引率・指導者を4人とし、チームメンバーをほぼ20人づつの2グループにわけて野外実習を行なったが、毎日の復習・予習会は全体で実施した。このシステムは効果的で、既述のように実習を支障なく行なうことができた。また、Upreti教授の忠告を受けて空色のユニフォームジャケットをカトマンズで急遽調達して使用した。これは野外はもとより街中でもチームのまとまり保持や迷子対策に有効であった。

実習ツアーの現地ロジスティクスはボカラのディプロマート社に委託した。カトマンズの食費以外の宿泊・食費・バスチャーター費総額は2,486,346円であった。チームの直接支出はカトマンズ5泊の食費、会食費249,253円、ボカラとルンビニでの入場料ほかの諸雑費106,123円、及び準備経費443,613円で、航空運賃以外のツアー経費の総額は3,285,335円、日本からの参加者35人の1人当たり93,867円であった。SHET-12に対する寄付金等の総額は554,226円で参加者一人当たりの補助金額は15,835円となった。結局航空運賃以外の参加費は学生：93,867-15,835=78,032円、一般：78,032+50000=128,032円となった。

なお、33人（復路インド経由の学生2人の航空運賃および非常帰国学生の復路航空運賃は除外）の航空運賃プラスVISA料金は平均約89,069円であったので、航空運賃を加えたSHET-12参加者の支出は平均78,032+89,069=167,101円（学生）／217,101円（一般）ということになった。なお、航空券一部キャンセル等についての清算は未決着であるが、数か月後になるということであり、その分は仮清算として算入して経理を閉めることにした。まずは当初目標の学生参加費20万円以下を達成できて幸いであった。

末筆になりましたが、本実習プロジェクトをご推薦頂いている諸学会・組織及び個人の皆様、クラウドファンディングをご支援下さった7人の個人の皆様、別枠でご寄付を頂いた酒井哲弥教授、国際 Gondwana 研究連合 (IAGR) と Gondwana 地質環境研究所を始め、ご関心・ご支援下さっている SHET 引率・指導教員登録者やそのほかの個人・団体の皆様、さらに本実習ツアーの参加者・指導教員らすべての皆様に深く感謝しております。本実習ツアーの成功は常に皆様のご支援のおかげです。ありがとうございました。

表 1. SHET-12 の実習日程と実習内容
SHET-12 itinerary and study contents

日程	月日	行程、実習内容等
	3月3日	開空16:20 (CA858) 河野・伊豆の2人
	3月4日	開空16:20 (CA858)17人/成田15:00(CA930) 7人 KTM11:05 (CA437) 2人(河野・伊豆)
	3月5日	成都9:45-KTM11:05(CA437) 24人 開空10:00(CX502)・香港KTM 22:00 (CX603) 8人
1日目	3月6日	午前中トリバン大学地質学教室で同大学の教員・学生と合同で野外実習事前学習会。午後トリバン大学生らとの交流(合同でカトマンズ市内見学)、夜日不眠観夕宴会(カトマンズ泊)。
2日目	3月7日	カトマンズ(貸切バス)→ボカラ(泊) カトマンズ→ボカラ間の地質と地学景観観察。地すべり、崩積、干枚田、河岸段丘、崖、扇状地とそれらの複合地形、土石流堆積物の観察。
3日目	3月8日	ボカラ(貸切バス)→カロパニ(泊) 洪水堆積物、土石流堆積物、低ヒマラヤ帯と高ヒマラヤ帯の観察。大野非常帰国に向けて深夜にガイドを呼び寄せる。
4日目	3月9日	カロパニ(貸切バス)→ルプラ往復(?)→ムククチャーター(歩)→カダベニ着(泊) 氷河地形、古ファン・デルタ地形、第四紀湖成層、テラス層群の観察と化石採集。大野はボカラに帰着。
5日目	3月10日	カダベニ(歩・貸切バス)→(ルプラ往復)→ジョムソン(歩・貸切ジープ)→カロパニ(泊) テラス層群と褶曲構造、段丘、第四紀湖成層。大野はカトマンズ発。
6日目	3月11日	カロパニ(歩・貸切バス)→タトパニ(泊) テラス層群下部層とその変成作用、第四紀の氷河・河川堆積層・湖成層・河川堆積物、南チベットデイトンメント(STDS)、高ヒマラヤ片麻岩、主中央断層(MCT)、低ヒマラヤ変成堆積物の観察。大野は早朝成田着。
7日目	3月12日	タトパニ(貸切バス)→ボカラ(泊) 堰止湖災害と関連崩積、低ヒマラヤ変成堆積物、洪水堆積物の観察。ボカラ宿舎で中間学習会。
8日目	3月13日	ボカラ周辺の地質と自然災害観察(貸切バス)。地盤沈下災害、地すべり地形、土石流堆積物、低ヒマラヤ変成堆積物、山岳博物館。ボカラ泊。
9日目	3月14日	ボカラ(貸切バス)→タンセン(泊) 低ヒマラヤ変成堆積物、タンセン層群の観察、バルバクワットの発見。
10日目	3月15日	タンセン→ルンビニ(泊) タンセン層群、低ヒマラヤ変成堆積物、主境界衝上断層、シワリク層群、主ヒマラヤ前縁衝上断層、ガンジス平原と沖積層、道路法面崩壊の観察、ルンビニで佛教聖地の見学。
11日目	3月16日	ルンビニ(貸し切りバス)→ナラヤンガートムグリーン→カトマンズ(泊) ガンジス平原、シワリク層群、主境界衝上断層、低ヒマラヤ変成堆積物とストロマイト化石。河野と伊豆はカトマンズ発デリー着。
12日目	3月17日	カトマンズ泊。午前中：自由時間(総括討論会準備など)午後：トリバン大学教員、学生と合同で野外実習の総括討論会。カトマンズ泊。
13日目	3月18日	終日、トリバン大学生らと交流会(カトマンズ界隈の世界遺産等見学)、ダガホテル帰着、トリチム全員とTU教員らと別れ夕食宴会。
14日目	3月19日	カトマンズ発12:05(CA438)成都行き23人、KTM発23:15(CX640)香港行き8人
	3月20日	開空12:40(CA927)/成田18:15(CA919)/開空21:05(CX502)/成田14:10(CX504)



博物館・ジオパークで地球を学ぼう！(30)
東北大学総合学術博物館

info

東北大学総合学術博物館
宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6-3
<http://www.museum.tohoku.ac.jp/>

ラス模型は、放散虫の骨格構造が詳細に再現されており、当館の人気展示の一つとなっています。一方、白亜紀の浮遊性有孔虫化石模型は、故半沢征四郎教授により作られたもので、展示では種による生息水深の違いを相対的に再現しています。有孔虫に関しては、故齊藤常正教授の収集した「斉藤コレクション」のデータベースのほか、「e-specimen」においては25属53種の浮遊性有孔虫化石の3次元画像を公開しており、当館のウェブサイトから閲覧可能となっております。

東北大学が114年にわたり収集したコレクション243万点を収蔵

館長 高嶋礼詩
技術職員 根本 潤・鹿納晴尚

1. はじめに

東北大学総合学術博物館には、東北大学開学以来114年の歴史の中で、研究・教育のために収集された資料・標本およそ243万点が収蔵されており、資料・標本数としては日本の大学博物館で3番目の規模となっています。仙台市中心部の西に位置する青葉山キャンパスの中に立地し、展示室は円柱状の吹き抜け2階建て、隣接する収蔵スペースは4階建ての構造になっています。当館の収蔵標本の多くは、古生物や岩石・鉱物ですが、金属学、化学、生物学、物理学、医学、歯学、薬学分野など多岐にわたっています。総合学術博物館の組織自体は1998年に発足しましたが、博物館の建物が建設されないために、1998年に建設された理学部自然史標本館を理学部と共用して展示・収蔵を行っています。つまり、建物の名称は理学部自然史標本館、運営している組織名は総合学術博物館であることから、入り口の案内看板には「理学部自然史標本館」と「総合学術博物館」の2つの名称が併記されています。2006年には、東北大学総合学術博物館は、東北大学史料館（片平キャンパス）と東北大学植物園（川内キャンパス）とともに、学術資源研究公開センターの下に統合され、現在に至っています。これら3園館は、それぞれ別のキャンパスに点在していますが、合同の展示企画も度々行っています。

2. 展示・保管標本とデータベース

学術論文で記載された当館の化石標本は

IGPS番号が付されて登録・管理されており、国内外から多くの研究者が資料・標本の観察・計測に訪れています。また、東北大学総合学術博物館のウェブサイトより収蔵資料データベースにアクセスすることで、一部の標本については画像や産地、標本番号を調べることが可能です。サハリンのアンモナイトや北朝鮮の化石など、第二次世界大戦前に採集された貴重な標本も数多く収蔵されていますが、当館を代表する標本としては、三疊紀前期の大沢層から産出した世界最古級の魚竜の完模式標本であるウタツサウルス（Utatusaurus hataii）をあげることができます（写真1）。この標本から、ウタツサウルスは全長3mで、陸生生物の特徴を色濃く残した原始的な魚竜であることが分かりました。2021年には当館の連携協定先である福井県立恐竜博物館の特別展「海竜」でも展示されました。近年ではウタツサウルスが産出する地層から、日本初の囊頭類の化石も産出しており、復元模型とともに展示されています（写真2）。また、日本最大級のアンモナイト化石（ペリスフィンクテス科）や世界最古のベレムナイト化石（Tohokubelus takaizumii）も宮城県の三陸沿岸地域から産出しており、これらの標本も2023年度より新たに展示されるようになりました。一方、東北大学は古くより微化石の研究が盛んに行われてきました。当館には微化石を顕微鏡で見ることができるコーナーもありますが、微化石の拡大模型も展示されています（写真3）。東北大学のガラス工場の職人によって作られた白亜紀から現世の放散虫ガ

3. 研究・教育活動

博物館教員は、理学部の協力教員として、研究・教育に従事しています。また、元大学教員の協力研究員も大勢在籍し、博物館の展示・普及・研究活動をサポートしています。当館所有の高分解能CTスキャンシステム共同利用設備は、大型標本を対象とした高出力装置と、微小標本を対象とした高精細装置の2台で稼働しており、学内外から様々な分野の研究者が標本の3次元画像の計測に訪れます（写真4）。これらの装置を用いた研究論文は、古生物学、岩石学、生物学、考古学、医学など様々な分野の研究に貢献しています。なお、当館の教員や当館所蔵の標本を用いた研究成果は、東北大学総合学術博物館紀要、研究成果概要や普及活動の紹介については、ニュースレター「Omnividents」として出版されており、これらは当館ウェブサイトよりPDFをダウンロードすることができます。

4. 普及活動

当館では、東北大学のアウトリーチの要として、全学主催のイベント関連の特別展示を担っています。2023年度は、東北大学女子学生入学110周年記念事業と連携し、「科学者としての黒田チカと最初的女子大生達」と題したパネル展示を実施しました。また、近隣の高校への出前講義・出前実習のほか、小中学生を対象とした東北大主催の「科学者の卵講座」や様々な自治体が企画する講演会におい



写真1：ウタツサウルスの標本



写真2：南三陸町の下部三疊系から産出した囊頭類の復元模型



写真3：有孔虫・放射虫化石模型の展示



写真4：浮遊性有孔虫の3次元CTスキャナ画像

て、地質、化石、考古学に関する講演を行っています。そのほか、松島町の松島離宮、仙台市科学館、仙台市秋保ビジターセンターなどにおいて、地質・古生物に関する展示監修も行ってきました。

当館では、所属する教職員だけでなく、学生主体のミュージアム支援団体「みちのく博物額楽団」が活動しています。この団体は東北大学だけでなく仙台周辺の大学の学生たちが当館を拠点として、ワークショップや展示解説、グッズ販売などを行い、当館のアウトリーチ活動を支援しています。当団体が作成した「みどころBook」には、博物館のおすすめ標本とその解説が書かれていて、館内の見学の際に欠かせないアイテムとなっています。

コロナ禍期間においては、当館も閉館を余儀なくされましたが、その間、SNSとしてX(旧Twitter)を開設し、当館の標本や展示物に関する様々な情報を発信してきました。また、当館の標本・資料や仙台の地質に関する

解説動画をユーチューブにアップした結果、来館者のいない中においても、ウェブサイトの訪問者数はコロナ期間中に倍増させることができました。これらの投稿はコロナ禍が開けた現在でも継続しています。コロナ禍後は、解説書付きの鉱物が入った石ガチャや、クイズラリーなどのイベントも実施し、再び多くの来館者が訪れるようになりました。

5. 東日本大震災と東北大学総合学術博物館

2011年3月11日、東北地方で「東日本大震災」が発生しました。博物館も大きな揺れに見舞われましたが、幸い、標本への被害はほとんどありませんでした。しかし、三陸沿岸地域の多くの博物館が被災し、貴重な標本が破壊されたり、津波によって運び去られたりしました。当館では震災直後から、このような被災ミュージアムの標本レスキューを行い、建物の無くなった博物館の展示標本を新たな展示施設ができるまでの間、一時的に保管し、津波によって破壊もしくは汚れた標本の復旧に尽力しました。また、津波によって破壊された建物や被災地域に対して三次元での計測を岩手県、宮城県、福島県の太平洋沿岸で震災直後から実施し、これらのデータをアーカイブとして保存する活動を行いました(東日本大震災遺構3次元クラウドデータア

ーカイブ構築公開事業)。このようにして集められたデータは、被災直後の惨状をバーチャルリアリティー(VR)画像としてみることができます(写真5)。常設展示での一般公開は行っていませんが、アーカイブから2次元動画にしたものを常時公開しています。当館では、このような震災遺構のVR画像を日本各地で体験するイベントを企画・実行し、津波災害への理解を深める活動を行ってきました。常設展では、岩手県船越半島の沿岸で、ジオスライサーによって採取された地層の剥ぎ取り標本も展示しています(写真6)。この剥ぎ取り標本の地層は厚さ4.5 mに達し、最下部に6000年前の年代の火山灰(十和田-中振火山灰)が挟まっています。この剥ぎ取り標本では合計13枚の粗粒堆積物層(津波堆積物)をみることができ、過去6000年間に繰り返し津波が襲ってきたことを実感できます。

おわりに

当博物館組織は今年で26年を迎えましたが、博物館の建設には至っていません。その間、教員の人数も開館時の8名から現在では5名へと大きく減少し、標本数が増加するのに対して、慢性的な収蔵施設の不足など、厳しい運営状況にあります。しかし、近年は東北大学史料館や植物園と連携を深めつつ、宮城

県内の他の展示施設と共同で展示・アウトリーチ活動を進めており、SNSやYouTubeによる発信にも力を入れています。コロナ禍の期間中、新たな化石展示も加わり、展示パネルの背景画の更新も大幅に進みました。ぜひ多くの方々にお越しいただければと思います。



写真6：岩手県船越半島で得られた津波堆積物の剥ぎ取り標本の展示

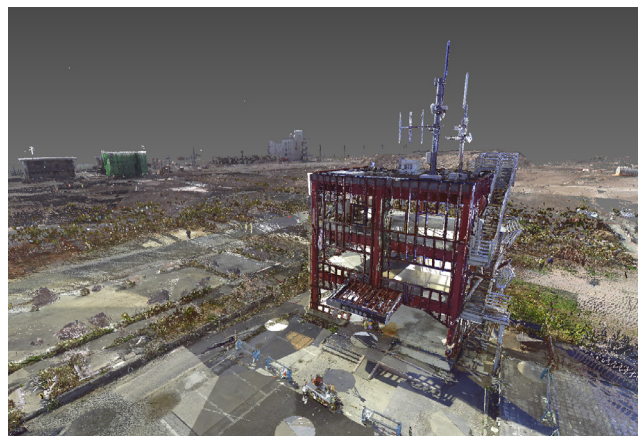


写真5：震災遺構デジタルアーカイブ(南三陸町防災対策庁舎)の画像

CALENDAR

2024.7～

地球科学分野に関する研究会、学会、国際会議、などの開催日、会合名、開催学会、開催場所をご案内致します。会員の皆様の情報をお待ちしています。

★印は学会主催、(共)共催、(後)後援、(協)協賛。

2024年

7月 July

(後)第61回アイソトープ・放射線研究発表会

7月3日(水)～5日(金)

会場 日本科学未来館 7階 未来館ホールほか(東京・お台場)

<https://www.jrias.or.jp/>

第245回イブニングセミナー(オンライン)

7月5日(金) 19:30-21:30

演題:ダイナミック地形学試論-下総台地の水文地形-

講師:近藤昭彦先生(千葉大学名誉教授)

参加費:主催NPO会員及び学生(無料)、非会員(1,000円)

<https://www.npo-geopol.or.jp/seminer.htm>

第201回深田研談話会

テーマ:海と陸から鬼界海底カルデラの実像に迫る

-最新の探査技術から見えてきた縄文の巨大噴火-

7月12日(金) 15:00-16:30

場所:深田地質研究所 研修ホール(東京都文京区)

講師:鈴木桂子氏(神戸大学)

定員:会場参加(30名)、オンライン(450名)*先着順

参加費無料(要事前申し込み)

<https://fukadaken.or.jp/?p=8305>

令和6年能登半島地震・7ヶ月報告会

7月30日(火) 13:00-17:00(予定)

オンライン開催

主催:防災学術連携体

<https://janet-dr.com/index.html>

8月 August

(後)科学教育研究協議会第70回全国研究大会(いわて花巻大会)

8月7日(水)～9日(金)

会場:花巻市立花巻中学校/花巻市立若葉小学校/花巻市文化会館(岩手県花巻市若葉町)

<https://kakyokyo.org/>

地学団体研究会第78回つくば総会

8月17日(土)～18日(日)

会場:つくばカピオ(茨城県つくば市)

<https://www.chidanken.jp>

9月 September

(後)第67回粘土科学討論会

9月4日(水)～9月6日(金)

すべて対面で開催予定(講演会9月4-5日,現地見学会9月6日)

会場:九州工業大学戸畑キャンパス(北九州市戸畑区仙水町1-1)

https://www.cssj2.org/event/annual_meeting/

★日本地質学会第131年学術大会(2024山形)

9月8日(日)～10日(火)

会場:山形大学小白川キャンパス

日本鉱物科学会2024年度年会・総会

9月12日(木)～14日(土)

会場:名古屋大学東山キャンパス

<https://jams-mineral.jp/meeting/>

第41回歴史地震研究会(木曾御嶽大会)

9月13日(金)～15日(日)

場所:木曾町文化交流センター(多目的ホール),王滝村公民館

<http://www.histeq.jp/kenkyukai.html>

(共)2024年度日本地球化学会第71回年会

9月18日(水)～20日(金)

会場:金沢大学・角間キャンパス(自然科学本館)

<http://www.geochem.jp/index.html>

(協)地盤技術フォーラム2024

9月18日(水)～20日(金)

東京ビックサイト・東ホール

<http://www.sgrte.jp>

10月 October

令和6年度日本応用地質学会研究発表会

10月9日(水)～12日(土)

会場:レクザムホール(香川県民ホール)(高松市玉藻町9-10)

<https://www.jseg.or.jp/index.html>

2024年度日本火山学会秋季大会(学術講演会)

10月16日(水)～18日(金)

会場:道立道民活動センター「かでの2・7」(札幌市中央区;予定)

<http://www.kazan-g.sakura.ne.jp/J/index.html>

ぼうさいこくたい2024

10月19日(土)～20日(日)

場所:熊本城ホール,熊本市国際交流会館,花畑広場

参加無料,一部オンライン配信予定

<https://bosai-kokutai.jp/2024/>

11月 November

国際 Gondwana 研究連合(IAGR)2024年総会及び第21回 Gondwana からアジア国際シンポジウム

11月18日～22日

場所・会場:マレーシア,クチンの Water Front Hotel

参加登録及び発表要旨提出先:iagr2024@curtin.edu.my

問合せ:Prof. Nagarajan Ramasamy, Curtin University, Malaysia

E-mail:nagarajan@curtin.edu.my

12月 December

地質学史懇話会

12月21日(土) 13:30-17:00

場所:北とびあ 806号室(東京都北区王子)

八耳俊文:マンハッタン計画と水俣病一戦後20年日本地球化学史 ほか

問い合わせ:矢島道子 pxi02070@nifty.com

★街中ジオ散歩

2024年 地質の日記念イベント開催報告
街中ジオ散歩in Tokyo「身近な地形・地質から探る麻布の歴史と湧水」

1. まえがき

地質の日記念行事として、日本地質学会、日本応用地質学会共同主催による、一般の方を対象とした徒歩見学会（街中ジオ散歩）を開催しました。

街中ジオ散歩は、感染症リスク回避の観点から2年間中止となりましたが、一昨年より再開し今回で11回目の開催となりました。今年は、東京都港区の東京メトロ広尾駅から麻布十番駅にかけて、身近に見ることができる地質や地形を見ながら半日間の散歩を楽しみました。

開催日：令和6年5月19日（日）

参加者数：21名

コース：集合10：00～解散13：30

有栖川宮記念公園（広尾駅近傍）→がま池→善福寺→古川・新広尾公園親水テラス（麻布十番駅近傍）

案内者：林 武司（秋田大学）

宮越昭暢（産業技術総合研究所）

幹事：【日本地質学会】矢部 淳（国立科学博物館）、中澤 努、小松原純子（産業技術総合研究所）、加藤潔（駒沢大学）、笠間友博（箱根ジオパーク）、細矢卓志（中央開発）【日本応用地質学会】原 弘（JR東日本コンサルタンツ）、橋本智雄（中央開発）

2. 街中ジオ散歩の状況

集合場所の有栖川宮記念公園入口付近では、開始直前まで道路工事が音が気になる状況でしたが、開会の挨拶までには収まり、薄曇りで心地よい風を感じる中での開催となりました。

案内者の林さん、宮越さんによる全体説明を受けた後、まずは公園北側の湧水地（紅葉滝）に向かいました（写真1）。ここには人工の滝があり、現在は池の水を循環させているようですが、小規模な谷地形の谷頭部になっていること、かつては大量の湧水が湧き出していた、ワサビの栽培もされていたことを学びました。また、人工滝の足元にある岩の間から、現在も湧水が湧き出している様子も確認できました。

紅葉滝から公園内にある池の途中には、湧水地を石垣で囲った水場があり、宮越さんが実際に水質を測定し、電気伝導率、pHの値は通常の雨水とは異なること、水温についてはそれほど低くないなどの説明がありました（写真2）。

水場から公園内の池のほとりを散策し、長い階段を上りきると台地状の平坦地が広がっており、たくさんの子供たちが遊んでいる広場がありました。参加者全員（周辺で遊んでいた子供1名も一緒に）の記念撮影は、この広場にある銅像（有栖川宮熾仁親王騎馬像）の前で行いました（写真3）。なお、この広場



写真1（左上）有栖川宮記念公園紅葉滝付近。写真2（右上）湧水地での水質測定。写真3（下）記念撮影（有栖川記念公園内）

周辺の台地が今回のコースの中で最も標高が高い場所となっていて、東側、西側ともに低くなっているとの説明を受けました。

記念撮影の後、近傍にある3等基準点（三角点）に向かい、三角点の柱石を交代で観察しました。三角点は、経度・緯度・標高の基準になっており、柱石の保存は法律で守られている等の説明がありました（写真4）。一方、参加者からは「三角点の記号は三角なのに、柱石は四角柱ですね」という素朴な感想もありました。

次に向かったのは「がま池」で、池の成り立ちや江戸時代からの伝承などについて説明がありました。この「がま池」は、現在縮小されて住宅地の中にあるため直接見ることはできませんでしたが、周辺の地形や古地図などから、水田涵養のために堰き止められた人工の池である可能性が高いとのことでした。言い伝えと地図から推定されることが異なる可能性があるとの説明も興味深かったです。「がま池」付近からは六本木方面の高層ビルが間近に見え、都心部にも凹凸に富んだ地形があることを改めて感じることができました（写真5）。

その後、仙台坂を下り善福寺付近にある「柳の井戸」を観察しました。「柳の井戸」は江戸時代から知られている歴史ある湧水地ですが、現在は石蓋に覆われているため、実際の湧水かどうかは不明とのことでした。ここでも湧水口で水質の測定を実施し、有栖川記念公園内の湧水で測定した結果と比較したところ、有栖川とは水脈が異なっている可能性が高いことがわかりました（写真6）。

最後に、今回のコースで最も標高の低い古川沿いの親水テラスに立ち寄り、人と水との関わりについて主に防災の観点から解説していただきました（写真7）。古川（上流は渋谷川と呼び方が変わる）は典型的な都市河川であり、ひとたび大雨があると雨水が集中し排水能力が追い付かなくなるが、河川の幅を広



左から、写真4：3等基準点の観察状況。写真5：「がま池」付近からの高層ビル展望。写真6：善福寺（柳の井戸）。写真7：古川親水テラス。

げる用地もなく、また海の干満の関係から深く掘り込むことも難しいとのことでした。これに対し、古川の地下には巨大な調節池（トンネル）が建設され、大雨の際に一時的に雨水を貯め洪水を防いでいるそうです。

3. あとがき

以上、見学会は盛況のうちに無事終了しました。その後の反省会では、距離、時間、参加人数ともに適当であったという意見があった一方で、以下のような課題もあげられました。

①説明をする場所が限られていたため、班ごと説明を行ったが、待ち時間が生じてしまった場面があった。

②班ごとに説明を受ける場所近くに喫煙所があり、他の班が待つ場所を配慮すべきだった。

次回以降、これらの課題を踏まえ、安全で更に楽しく興味深い見学会にしていきたいと考えています。

（文責：中央開発 細矢卓志・橋本智雄・国立科学博物館 矢部 淳）

表紙紹介

北イタリアのロッソヴェローナ（アンモナイトを伴う赤色石灰岩石材） Rosso Verona: a brownish-red limestone with skeletons of ammonites, as traditional building stones, northern Italy

写真・解説：正会員 貴治康夫（立命館高等学校）

イタリアを代表する世界的な石材といえば、大理石・石灰岩・トラヴァーチンといった石灰質の岩石である。ミケランジェロの彫刻で有名な白い大理石、Bianco Carraraと対照的なのが、Rosso Verona（ヴェローナの赤大理石）と地元で呼ばれる北イタリア産の赤色石灰岩である。Rossoとはイタリア語で「赤」を意味し、日本ではロッソマニャボスキ（Rosso Magnaboschi）という石材名が普及している。

イタリア国内最大の湖・ガルダ湖の東方、ヴェネト州・ヴェローナ市街北方のレッシーニア高原は南東アルプス山脈の一部で、褶曲したテチス海の堆積物が分布する。ドロマイト・灰色石灰岩・赤色石灰岩・赤色頁岩・砂質石灰岩・砂岩などの地層が整合的に重なる。石灰岩はVeneto統の多数の層準から採石され、ヴェローナの伝統産業となっている。なかでも上位に位置する中-上部ジュラ系のRosso Ammonitico Veneto層の石灰岩は赤色から赤味をおびた茶色を呈し、大小のノジュール状のアンモナイト化石が特徴である。赤い着色は赤鉄鉱によるものと考えられている。アンモナイトの他、二枚貝や有孔虫、放射虫の微化石も多く含まれ、石材には切断方向によってさまざまな模様が現れる。泥質の部分は剥離性があるため傷みやすく、屋外では長年月の間に脱色し、白っぽくなる。

Rosso Veronaは古くから、北イタリアを中心に街中の広場、建物の壁面、室内装飾などに広く使用されてきた。1980年以降、ヴェローナの採石業は縮小の一途を辿るものの、石材表面の模様が古典的な装飾を想起させ、根強い人気がある。北イタリアの各都市で、赤い敷石にアンモナイトをたやすく見つけることができる。

写真説明

左上：ヴェネツィア、サン・マルコ広場周囲の回廊にみられるロッソヴェローナ。

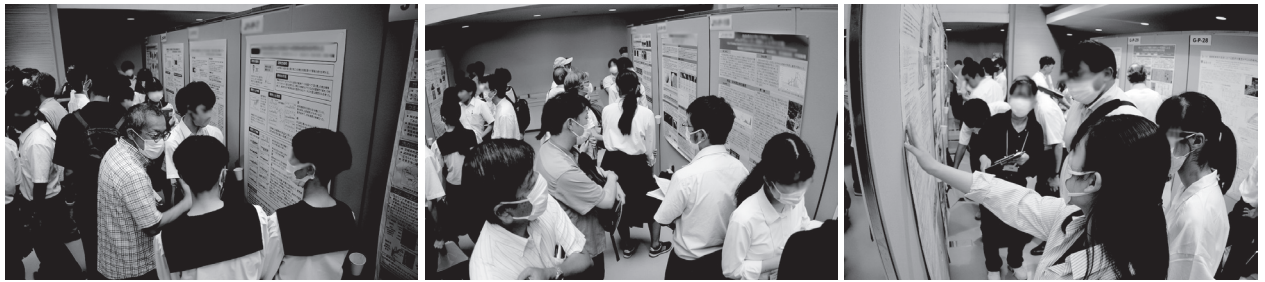
右上：ヴェネツィア、敷石のアンモナイト（径、約15cm）。

右中：ヴェローナ、アリーナ（円形闘技場）から「ジュリエッタの家」方面に向かうジュゼッペ・マッジーニ通りの路面にみられるロッソヴェローナ。

左中：ヴェローナ、敷石のアンモナイト（径、約12cm）。

左下：ミラノ、ドゥオーモ（大聖堂）付近の路面のロッソヴェローナ。

右下：ミラノ、ドゥオーモ（大聖堂）付近アーケードのアンモナイト（径、約20cm）。



2023年京都大会でのジュニアセッションの様子

日本地質学会第131年学術大会（2024山形）

第22回ジュニアセッション：参加校募集

標記発表会への参加校を募集しています。参加応募の詳細は学会 HP 等をご覧ください。地学、理科クラブの研究活動の発表、そのほか、この1年間に授業の中で行った活動の報告、児童・生徒の研究レポートなど地学的な活動、研究内容であれば構いませんので、ぜひ応募してください。

（日本地質学会地学教育委員会）

コアタイム日時：2024年9月8日（日）午後2時間程度

会場：山形大学小白川キャンパス（大会ポスター会場）

参加対象：

- ・小、中、高校の地学クラブや理科クラブ、個人研究等の活動成果の発表
- ・小、中、高校の授業における研究成果の発表
- ・活動、研究内容は地学的なもの（地質や気象などの地球科学・環境科学、天文など）

発表方法：

- ①**ポスター発表**（ポスターサイズ：縦210cm×横90cm）。大会会場にて対面形式で1日間掲示してください。
- ②**別途予備審査のためのポスター PDF ファイル**（ファイルサイズ最大 20MB 程度に）を会期 10 日前までにご提出ください

※当日のポスター発表と事前の PDF は両方必須です。

参加申込締切：7月16日（火）

※申し込みと同時に講演要旨の内容もご提出ください。申込は専用申込フォームもしくは所定の書式を地学教育委員会までご提出ください。

詳しくは、大会 HP まで

<https://pub.conf.it.atlas.jp/ja/event/geosocjp131>

今年も対面ポスターを
実施します！！



2024 山形 地質



地質学雑誌

地質学雑誌は、2022年（128巻）からは完全電子化となりました。会員の皆様にも、公開されている新しい論文をご紹介します。ぜひJ-STAGE上で本論文を閲覧してください。QRコードからも各原稿にアクセスして頂けます。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/geosoc/-char/ja>

新しい論文が公開されています

報告

A cicadid hind wing fossil (Hemiptera, Cicadidae) from the Lower Miocene Masaragawa Formation, Seki, Sado Island, Niigata Prefecture

Yui Takahashi, Hiroaki Aiba, Mitsuhsa Aida
<https://doi.org/10.5575/geosoc.2024.0011>

A fragmentary hind wing of a fossil Cicadidae was obtained from Lower Miocene lacustrine deposits of the Masaragawa Formation in Seki, Sado City, Niigata Prefecture. Based on unique characteristics, such as the quite short apical cell 1 and partial preservation of small wing, the specimen is identified as Cicadidae gen. et sp. indet. The fossil does not have close relatives in modern Japan or East Asia. This occurrence is the oldest fossil record of a cicada in Japan.



論説

兵庫-鳥取県境海岸部の下部中新統火山岩類の分布と岩脈の方向

羽地俊樹, 松原典孝, 郡山鈴夏

<https://doi.org/10.5575/geosoc.2024.0008>

兵庫-鳥取県境の海岸部において、下部中新統火山岩類の地質調査と岩脈法による応力解析を行い、以下の知見を得た。鳥取県境の鳥取層群河原火山岩部層と兵庫県境の北但層群八鹿層は、岩相が類似しており同時期の一連の地層と判断される。これらの火山岩類は基盤と高角不整合の関係にあり、東西走向で北落ちの窪地を埋積したものと推定される。同様の構造は調査地域の約10 km東方でも見出されており、この古地形の成因は火山岩類の堆積以前の断層活動である公算が大きい。火山岩類と同時期の63枚の岩脈の方向解析で、北北東-南南西引張の正断層型応力を得た。これは他地域の北但層群の岩脈の解析の結果と類似しており、北但盆地の応力状態の空間的一様性を示す。



論説

青森県、下北半島西部に分布する新第三系年代層序の再検討と仏ヶ浦カルデラの提唱

盛合 秀, 折橋裕二, 佐々木実, 沼田翔伍, 仁木創太, 浅沼 尚, 浅原良浩, 平田岳史

<https://doi.org/10.5575/geosoc.2024.0007>

下北半島には中部中新統の檜川層が広範囲に分布している。本研究では同半島西部、仏ヶ浦周辺地域を中心に地質調査及びジルコンU-Pb年代測定を行い、檜川層の年代層序の再検討を行った。檜川層の模式地である檜川流域からは13.4 Maの年代が得られ、先行研究と一致した。一方、仏ヶ浦周辺域では扇状陥没構造



が確認され、仏ヶ浦凝灰岩と福浦流紋岩溶岩が充填していることから、これらはカルデラ形成期の産物であると考えられる。カルデラ東方に分布する縫道石山貫入岩体のU-Pb年代は4.7 Maであり、仏ヶ浦凝灰岩と福浦流紋岩溶岩はそれぞれ4.5 Maと4.4 Maであった。また、カルデラ東南部の境界付近に分布する丸山流紋岩溶岩の年代は4.0 Maであり、後三者を仏ヶ浦カルデラ噴出物と新たに定義する。また、本調査地域の東部から南部にかけて上部中新統の牛滝凝灰岩(7.6 Ma)が新たに見い出され、下北半島西部の上部中新統については、さらなる検討が必要である。

フォト

富山県上市町の下部中新統稲村水中地すべり堆積物

荒戸裕之, 山本由弦, 山田泰広, 保柳康一, 金子一夫, 國香正稔, 白石和也, 千代延俊, 藤田 将人, 吉本剛瑠, 関山優希

<https://doi.org/10.5575/geosoc.2024.0009>



Fig. 2. Aerial photograph of the Inamura outcrop, showing large cliffs that open toward the south. The outcrop comprises alternating beds of tuffaceous sandstone and mudstone, tuff and tuff breccia of the Orido tuff member. Some of the alternating beds are thought to have slid along the seafloor relatively soon after their deposition, dipping from back to front in this image, independent of the present-day direction of the strike and dip. Red boxes and numbers indicate the locations of the photographs shown in Figs. 3, 4 and 5.

総説

琉球弧のネオテクトニクス-第四紀での隆起・沈降プロセスに関する研究の課題と展望-

大坪 誠, 尾方隆幸

<https://doi.org/10.5575/geosoc.2024.0004>

本論文では、琉球弧における、島弧発達タイミング、様式および地形発達について、第四紀の地殻変動の観点でレビューを行い、琉球弧の島々の隆起・沈降の傾向と琉球弧島弧を分断する凹地（トカラ構造海峽、慶良間海裂、与那国凹地）の形成時期や形成プロセスについて議論する。琉球弧の三つの凹地では、トカラ構造海峽および慶良間海裂の2つの凹地と与那国凹地では発達する正断層の主な走向が大きく異なる。琉球弧の島弧では隆起と沈降のそれぞれの開始時期には空間的なばらつきがある。今後の琉球弧のネオテクトニクスの理解に向けた課題としては、ネオテクトニクスの捉え方、ネオテクトニクスを踏まえたさまざまな地形形成環境と営力を組み合わせた地形発達理解、および島弧で進行している地殻変動の理解における地質学の貢献が重要である。



巡検案内書

但馬地域の舞鶴帯南帯

木村光佑, 隅田祥光, 早坂康隆

<https://doi.org/10.5575/geosoc.2023.0035>
 兵庫県但馬地域は京都市から西北西へ約100 kmの地点に位置しており、舞鶴帯南帯に属する夜久野オフィオライト朝来岩体が露出している。本見学コースでは、



兵庫県朝来市、但馬地域に露出する夜久野オフィオライト朝来岩体について見学する。朝来岩体は島弧下～中部地殻断面に相当する部分を見ることのできる場であり、本コースでは最下部のミグマタイト帯から中部地殻相当の珪長質貫入岩までの一連を観察する。また最近報告されている舞鶴帯についての新たな知見についても紹介する。

2024年度会費督促請求に関するお知らせ

2024年度会費およびそれ以前の未納会費がある方に対して、請求書（郵便振替用紙）を6月13日に発送しました。

早急にご送金くださいますようお願いいたします。また自動引落については、6月24日に引落しを行います。

※2024年度分会費が未納の場合は、7月号からのニュース誌の送付を一時的に中止させていただきます。

※2024年度分の学生会員申請は受付を終了しています（遡っての申請はできません）。

長期未納者の雑誌バックナンバーの送本について：3年度分以上の未納会費をお振込みされる方で、未納期間中（送本停止中）の雑誌バックナンバーの送付を希望する方は、郵便振替用紙のチェック欄にて、意思をお示し下さい。チェックが無い場合は最新号のニュース誌から送本再開します。地質学雑誌は128巻（2022年1月）から、完全電子化されました（J-STAGE上にてフリーアクセスにてご覧いただけます。）。2022年1月以後、冊子体はニュース誌のみ発行しています。

一般社団法人日本地質学会 運営財政部会

TEL：03-5823-1150 e-mail：main@geosociety.jp

事務局からのお願い：会員情報に変更があった場合は、,,

自宅や勤務先等登録内容にご変更があった場合は、速やかに学会事務局までご連絡をお願い致します。

毎月の会誌や大切な郵便物が届かなくなってしまう可能性があります。情報の変更は、学会ホームページ「会員ページ」にログイン（ID：会員番号）していただければ、ご自身で登録内容を更新することも可能です。

ご協力をよろしくお願い致します。

問い合わせ：日本地質学会事務局 メール：main@geosociety.jp

電話 03-5823-1150 FAX 03-5823-1156



学会記事

2023年度第3回理事会議事録

日時：2024年4月13日（土）14:00～17:00

【WEB会議形式】

出席役員：出席理事40名，出席監事2名

- ・会長1名：岡田 誠
 - ・副会長2名：杉田律子・星 博幸
 - ・常務理事1名：中澤 努
 - ・副常務理事1名：緒方信一
 - ・執行理事11名：保坂（内尾）優子・内野隆之・加藤猛士・狩野彰宏・亀高正男・小宮剛・高嶋礼詩・辻森 樹・松田達生・矢部淳・山口飛鳥
 - ・理事会議長1名：小松原純子
 - ・理事会副議長1名：大橋聖和
 - ・理事22名（議長・副議長を除く）：青矢陸月・岩 寿一郎・天野一男・磯崎行雄・大友幸子・笠間友博・亀田 純・本郷（川村）紀子・北村有迅・斎藤 真・佐々木和彦・沢田 健・下岡和也・菅沼悠介（15時退出）・高野 修・野田 篤・保柳康一・松田博貴・三田村宗樹・道林克禎・矢鳥道子・山本啓司
 - ・監事2名：岩部良子・山本正司
- 事務局1名：澤木寿子
- 欠席役員：理事10名：尾上哲治・神谷奈々・平出（黒柳）あずみ・清川昌一・桑野太輔・坂口有人・西 弘嗣・細久卓志・榊原（堀）利栄・山路 敦
- ・審議開始に際し，本日の書記として保柳理事，高野理事を指名した。
 - ・小松原純子理事会議長によって，成立要件の確認がなされ，成立要件：理事総数50名の過半数25名，本日の出席者40名で本理事会は成立が確認された。なお，議決：出席者の過半数20名以上である。
 - ・引き続き小松原議長により報告事項の検討に入った。

報告事項

1. 執行理事会報告（中澤常務理事）

第6～9回の執行理事会議事録の中から，次の点が中澤常務理事より報告された。地質技術者教育委員会事項として，地質系大学卒業生の2020～2022年度の進路のまとめがニュース1月号に掲載，2023年度キャリアビジョン誌の発行，および第4回JABEEシンポジウム（3/3）の開催（シンポの内容はYouTubeで配信中）について報告があった。また地質災害委員会事項として，令和6年度能登半島地震に関する情報の学会HP掲載，防災学術連携体での報告会（1/31開催）に地質学会から発表がなされたことなどの紹介と被災会員への会費減免処置について報告があった。このほかに，専門部会関連事項，地質JIS改訂の検討，地学オリンピック関連，大学入試共通テストに対する意見書の提出について報告があった。

2. 理事，委員会，研究委員会報告

1) 総務委員会（亀高理事）

- ・会員動静（2024年3月末の会員数：賛助1,ジュニア4,正会員3032 合計3101,退会82,除籍88,昨年比-32で減り方が少なくなった）と逝去会員7名の報告があり，黙祷を行った。
 - ・永年会員顕彰彰者の報告。顕彰者は次の通り（敬称略）。
70年顕彰（4名）※1953年度入会。2023年度会費まで納入済：石井良治，加藤定男，武井 颯湖，山崎 允
60年顕彰（5名）※1963年度入会。2023年度会費まで納入済：小池春夫，滝沢文教，戸野聡，平野英雄，吉田 勝
50年顕彰（40名）※1973年度入会。2023年度会費まで納入済：相田喜久夫，天野一男，井内美郎，打江 進，岡市正秀，小田康則，角和善隆，我謝昌一，加戸敬亮，加藤真人，鹿野和彦，栗原俊己，黒田登美雄，酒井 彰，坂本正夫，坂本 満，穴戸俊夫，嶋崎統五，清水岩夫，下平真樹，菅谷政司，田切美智雄，竹内 章，田中俊廣，佃 栄吉，中川重紀，中原伸幸，長峰 智，中山 健，成田賢，西山忠男，廣井美邦，深沢徳明，堀江一教，三宅康幸，宮坂省吾，宮崎精介，宮田雄一郎，米澤正弘，渡辺拓美
40年顕彰（58名）※1983年度入会。2023年度会費まで納入済：伊藤順一，今村哲己，江崎洋一，江間 学，大内一男，大曾根 修，大藤智明，岡野裕一，乙藤洋一郎，角縁 進，加藤 徹，加藤幸弘，狩野彰宏，亀山正義，城井浩介，北沢久和，木原茂樹，倉本真一，小出和正，上阪佳史，此松昌彦，今野隆彦，五月女 寛，坂井敬一，坂井 充，佐脇貴幸，清水 智，瀬戸浩二，高見智之，滝本俊明，竹内圭史，竹内 誠，竹之内 耕，蓼本英史，田中 淳，田中竹延，寺井邦久，寺林優，鳥居直也，中里裕臣，中野 俊，兒子修司，野坂俊夫，原 光宏，原澤宏和，備前貴俊，福地龍郎，布施圭介，星住英夫，本間直樹，班目芳光，松本和彦，松本茂喜，三田村宗樹，三戸 望，宮坂 晃，村松 武，茂庭隆彦
- #### 2) 行事委員会（山口理事，高嶋理事）
- ・2024年山形大会について，日程：9月8日（日）～10日（火），シンポジウム，トピックセッション，巡検コースが紹介された。2025年熊本大会は9月14日（日）～16日（火）開催予定。プレ巡検，ポスト巡検の9コースを予定。2026年は中部支部担当。開催大学は現在検討中。
 - ・2/25海底鉱物資源についてのショートコースを実施（参加者43名）。参加者アンケートの結果が報告された。次回実施内容を計画。報告の後，山形大会，熊本大会の巡検コースに関する質問がいくつか出た後，斎藤理事より，山形大会は科研費が不採択であった。結果を分析して今後の戦略や科研費以外の資金調達も検討してもらいたい，との意見があった。これに対し，高嶋行事委員

長より，山形大会は県コンベンションからの助成金を活用する予定との補足説明があった。

3) 専門部会連絡委員会（代理中澤常務）

各部会からの2023年度活動報告が紹介された。どの部会も積極的に活動が行われており，大会時のランチョンなどにより情報交換などがされている。部会からは，部会のメーリングリストが使えなくなったので不便との意見が出ている。これについては，現在メルマガ方式の部会毎の配信機能を準備中である旨，執行理事会から説明があった。

4) 地質学雑誌編集委員会（小宮理事）

論文投稿がやや低調。昨年比-4であることから，理事各位へも投稿が促された。

5) Island Arc編集委員会（辻森理事）

2023年は55件投稿であり例年より少なめであった。2024年は現在21件で比較的順調であるが，さらなる投稿が求められた。受理率の状況について説明があった。

6) 地質の日（矢部理事）

各支部などの行事予定が紹介された。5/12オンライン講演会のYouTube配信を広く視聴してもらうため，博物館やジオパークなどでパブリックビューイングを開催してもらう呼びかけを行っている。取り組みがあれば申請してほしい旨発言があった。街中ジオ散歩（応用地質学会共催）は，今年も東京都内（港区麻布周辺）で実施予定。

7) 支部長連絡会議（杉田副会長）

2023年度支部活動の報告があり，コロナ禍収束で支部活動が元に戻ってきている傾向にある旨報告があった。

8) 若手活動運営委員会（下岡理事）

地質系業界オンライン交流会（2/16）の実施報告，山形大会での「学生・若手のための交流会」（大会前日9/7夕方）の開催予定，若手巡検の準備状況が報告された。若手巡検は，本年10～11月にバスによる名古屋駅発着の中部地方日帰り巡検を計画。学生会員へは参加費の半額補助がある。

9) 選挙管理委員会（代理中澤常務）

理事選挙結果報告があった。代議員による投票は，投票総数133票で投票率78%であった。地方支部区理事および監事選挙は無投票当選であった。

小松原理事より，立候補者の属性表記（若手，女性）について，少数者のみ区別して表記するのではなく，所属区分のように全員の属性を示すべきではないかという意見があった。

10) その他：IGC2024年について現状報告（岡田会長）

3rdサーキュラーには「竹島巡検」はなくなったが「East Sea」の表記が一部残っている。日本学術会議IUGS分科会からIUGS President宛に懸念を伝えるレターが送付された。

10分間の休憩後，15:00から再開。後半の審議事項は大橋副議長により進められた。

審議事項

- 「大地と人の物語 ～地質学で読み解く日本の伝承～(仮)」出版企画提案(天野理事)
出版社より、ジオパーク支援委員会主催のシンポジウム(2023/1/28開催)の内容をもとにした書籍出版の誘いがあり、ジオパーク支援委員会より出版企画が提案された。日本地質学会編とし、150ページ、オールカラー、初刷3000部(予定)、電子出版も計画。支援委員会メンバーや企画出版委員会で編集委員会を組織する。編集委員長は野村律夫会員。以上の内容を審議して、賛成多数で企画提案は承認された。
- 2024年度研究奨励金支給対象者の決定(内野理事)
3月の選考委員会で選考し、6名(吉本剛瑠会員、都丸大河会員、小坂日奈子会員、小西拓海会員、三村匠海会員、金指由維会員)を採択したことが報告された。なお支給額は最大20万円。一部の採択者については金額の妥当性を審査して減額した。この提案は賛成多数で承認された。
- 2024年度名誉会員候補者の選出(星副会長)
名誉会員推薦委員会の総意として、加藤碩一会員、狩野謙一会員、鳥海光弘会員の3名が名誉会員候補者として推薦理由とともに提案された。提案は賛成多数で承認された。
- 2024年度学会各賞受賞者の決定(三田村理事)
各賞選考委員会三田村委員長より、受賞候補者の選考結果について報告がなされ、審議の結果、賛成多数で承認された。受賞者は以下の通り。
都城秋穂賞(1件): Gregory F. Moore氏
ナウマン賞(1件): 岡本 敦会員
小澤儀明賞(1件): 羽田裕貴会員
柵山雅則賞(1件): 奥田花也会員
日本地質学会Island Arc Award(1件): Sawaki, Y., et al (2020) 29. e12361.
論文賞(1件): Nakajima, T., et al (2020) 29. e12349.
小藤次郎賞(1件): 岡本 敦会員
地質学雑誌特別賞(1件): 牛丸健太郎ほか(2020) 126巻, 631-638
研究奨励賞(5件): 福島 諒会員, 木下英樹会員, 武藤 俊会員, 渡部将太会員, 吉田聡会員
学会表彰(1件): 夏原信義氏
(学会賞, 功績賞, フィールドワーク賞は該当者なし)
各賞選考委員会および各賞選考検討委員会から、推薦、選考にかかわる内容について理事会へ多数申し送りがあった。これらについては、執行理事会で議論を進めることとした。
- 2023年度事業実績概要の確認(中澤常務)
前回理事会(12月)以降に実施された事業の追記について確認の上、承認された。
- 2024年度事業計画骨子の確認(岡田会長)
計画骨子概要の修正点として、学術大会、学術研究活動、出版計画、地質災害対応、広

- 報・普及活動、社会貢献、地学教育、国際連携、会員サービス・学会運営について説明があった。天野理事から出版活動について、本理事会の審議事項1で承認された書籍の出版予定を追加するよう提案があり、前回の理事会以降の概要修正点を含めて承認された。
- 2023年度収支決算(亀高理事)
決算について説明があり、賛助会員が増えて賛助会費収入が増えた点、年会収入が増えた点、支出はほぼ予算通りである点、総収支は若干の黒字になる点などが述べられた。賛成多数で承認された。
 - 2024年度予算案(亀高理事)
予算案について説明があり、会費収入は会員減により減少を見込んでいる点などが述べられた。賛成多数で承認された。
 - 日本地質学会運営規則の変更(Island Arc Awardの廃止)の提案(辻森理事)
出版社によるプロモーション活動の一環として創設された本賞について、当初の目的が達成され、出版社からの賞金が2022年度を最後に廃止されたこと、本賞の対象は論文賞の表彰対象にもなっていることなどの理由から、賞の廃止が提案された。あわせて中澤常務理事からこれに伴う日本地質学会運営規則の改正が必要な旨が説明された。規則の改正を総会に提出することが賛成多数で承認された。
 - 総会議案の決定(中澤常務):
第1号議案 2023年度事業報告・決算報告・監査報告
第2号議案 代議員、理事および監事選挙結果報告
第3号議案 2024年度事業計画
第4号議案 2024年度予算案
第5号議案 名誉会員の選出
第6号議案 運営規則の変更(Island Arc Awardの廃止について)
これらの議案の提案について賛成多数で提案された。
 - その他
・Island Arc編集委員会新規委員1名追加: 長谷川 卓会員(金沢大学) 専門: 古生物) 任期: ~2024年6月総会まで。
狩野理事から提案され、賛成多数で承認された。
- ## 監事報告
- 監事より今回の理事会に関連したコメントが述べられた。
(岩部監事) 2023年度から検討をしている学会ホームページの刷新作業を本格的に取り組んでほしい。また新会員システムについて、会員へのさらなる周知をすすめ、業務の効率化に繋げてもらいたい。
(山本監事) 審議事項の1について、出版企画の提案は「地質」の魅力を伝えるユニークな企画であるので積極的に進めてほしい。
- 以上、この議事録が正確であることを証するため、議長及び出席監事・理事は次に記名・捺印する。

2024年5月7日

- 理事: 議長 小松原純子
理事: 副議長 大橋聖和
代表理事: 会長 岡田 誠
理事: 副会長 杉田律子
理事: 副会長 星 博幸
監事: 山本正司
監事: 岩部良子
理事: 出席理事名(省略)

2023年度第9回執行理事会議事録

日程: 2024年3月16日(土) 13:00 ~ 16:00

【WEB会議】

- 出席: 岡田 誠, 杉田律子, 星 博幸, 中澤 努, 緒方信一, 内尾(保坂) 優子, 亀高正男, 小宮 剛, 坂口有人, 高嶋礼詩, 辻森 樹, 矢部 淳
監事: 岩部良子
欠席: 内野隆之, 尾上哲治, 加藤猛士, 狩野 彰宏, 松田達生, 山口飛鳥, 山本正司(監事)
事務局 澤木
*定足数(過半数: 10)に対し、執行理事12名の出席
*前回23-8議事録案について、本執行理事会にて承認された。

報告事項

- 全体的報告
・地質地盤情報の活用と法整備を考える会(代表 栗本史雄)より2024年4月(予定)に一般社団法人に移行し、今後名称を「国土デジタル情報研究所 地質地盤情報の活用と法整備を考える会」として活動する旨連絡があった。
・文部科学省より、令和7年春の科学技術に関する黄綬、紫綬及び藍綬褒章受章候補者の推薦依頼があった。
 - 運営財政部会(亀高・加藤)
 - 総務委員会
<共催・後援依頼、他団体の募集、連絡等>
・令和6年度第19回筑波大学朝永振一郎記念「科学の芽」賞より後援依頼があり、承諾した。
・三浦半島活断層調査会より、地質の日記念「深海から生まれた城ヶ島」地層見学会(2024/6/2開催)への後援依頼があり、承諾した。
- <会員>
- 今月の入会者: 4名(2024年度からの入会)
正会員一般(3名) 金栗 聡, 古川稔子, 米倉優太
正会員学生(1名: 単年度) 前田宗孝
 - 今月の退会者: なし
 - 今月の逝去者: 1名

正会員シニア（1名）澤田武美（逝去日：2023年12月7日）

4. 2024年2月末会員数

賛助：31, 名誉：34, ジュニア会員：4, 正会員：3204 [一般2151, シニア840, 学生213] 合計3273 (昨年比-29)

5. その他

①2023年度末退会予定者数（正会員74名, 一般会員：36名, シニア会員：31名, 学生会員：7名）

②2023年度末除籍予定者数（正会員89名）.

③永年会員顕彰者（4月理事会にて報告予定）. 対象者は、顕彰年度の前年度までに40年, 50年, 60年, 70年間の会費を納入した会員. 3月末までの会費納入者で対象者を抽出予定.

<会計>

会員システム保守費用が値上げとのこと. 年額516,010円税込（年額1万余の値上げ）

<その他>

・事務局ネットワークセキュリティ強化のためファイアウォールの導入を検討中. FortiGATE：月額リース料16,300円, 月額保守料5,500円. 導入を承認した.

・2023年度寄付者の報告：磯崎行雄会員

3. 広報部会（内尾・松田）

1) 広報委員会（内尾）

・フォトコンテスト審査終了. 入選作品11点を選考した（最優秀賞該当なし）. 講評等準備中. 入選作品展示会：5/1（水）-5/12（日）於 上野公園東京パークスギャラリー.
・学会HPリニューアルの進捗状況. 常時活用されているページを中心に、外注での移設ページの選択と分量の概算作業中. 当初からの計画は約100ページで150万程度を想定. 各ページの取捨選択を各部会等に依頼する予定.

4. 学術研究部会（辻森・尾上・高嶋・山口）

1) 行事委員会（高嶋・山口）

・2023京都大会：巡検案内書その後
→Aコース（第四系）：査読後の著者修正段階. 4月下旬には修正稿を提出の予定.
→Bコース（ジオパーク）：未投稿

・2024山形大会：

→山形大会会場使用料の減免措置については年度明けに決定される見込み.

→巡検案内書の準備状況：4コース分査読中（A, B, C, F）. 3コース分近日投稿予定（D, E, G）. 1コース状況不明（H）

→執行理事会企画シンポジウム：ニュース誌4月号（予告記事）に紹介記事を掲載する.

・2025熊本大会：巡検コースの詳細が示された（→審議事項へ）

・2026金沢大会：金沢大会会場使用料について概算見積を大会LOCに依頼中.

・ショートコース（山口）：第10回ショートコース「海底鉱物資源」を実施（2/25開催, 参加者43名）.

2) 専門部会連絡委員会（尾上）

・「地震火山観測研究計画（第3次）」に関す

る地質学会提言への対応について、地質学会からの17件の提言のうち「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画（第3次）の推進について」に反映された提言は6件（+部分的に該当するもの2件）あった. 地震の研究に関する提言はよく反映されているが、火山の研究に関する提言は反映されていない. 意見を頂いた専門部会に検証結果を報告する予定.

・各部会に対して、体制・活動の2023年度年次報告を依頼中.

3) 国際交流委員会（辻森・岡田）

IGC2024 3rd circular（複数回の更新あり）の内容を受けて、IUGS分科会からの現状報告があった. 参加は個々の判断に任せる.

4) 地質標準化委員会（内野）

・JIS A0204及びJIS A0205の今後の予定について、今年が改定の年である. 4月中旬に原案作成委員会開催予定. 地質学会からは磯崎理事が参画.

5. 編集出版部会（狩野・小宮）

1) 地質学雑誌編集委員会（小宮）

(1) 編集状況報告（2024年3月15日現在）

・2024年投稿論文：15（昨年比+2）[内訳] 論説7（和文7）, 報告2（和文1, 英文1）, レター1（和文1）, フォト1（和文1）, 巡検案内書4

・査読中：21, 受理済み：1, 入稿・校正中：8, 130巻公開済み6件（88ページ）
投稿の昨年比は同程度ないし少ない状況. 呼びかけをお願いしたい.

2) Island Arc編集委員会（狩野）

(1) 編集状況報告

・2023年IFの見込み（0.91）

3) 企画出版委員会（松田）

特になし

6. 社会貢献部会（坂口・矢部・内野）

1) 地学教育委員会（坂口）

・令和6年度大学入試共通テストの地学関連科目に関する意見書（→審議事項へ）

2) 地質技術者教育委員会（坂口）

・第4回JABEEシンポジウム「大学縮小期に社会の要求にどう答えるか」3/3開催. 参加者89名. 参加者アンケート（66件：回答率74%）の回答を整理中. 当日の録画内容を近日YouTubeに公開予定.
併せて「大学教育に産業界は何を期待しているか」のアンケート結果についても今後参考したい.

3) 生涯教育委員会（矢部）

・自然史学会連合よりパブリックコメント募集の連絡があった（「千葉県立中央博物館みらい計画（案）」に関する意見募集）. 募集締切が迫っての広報であったため、会員への周知は行えず、個人としての意見を寄せることした.

・ニュース誌連載記事「博物館・ジオパークで地球を学ぼう！」の記事分担を進めている. 3月号は青森県立郷土館・鳥口氏.

4) 地震火山地質子どもサマースクール（星）

【報告資料03】

・3学会連合企画委員会が2/18にあり、今後の大会準備状況等について報告・協議があった.

・2023年大会（神奈川県平塚）：決算報告が2月中旬に完成する見込み. 戻入金について実行委員会から学会事務局に連絡がある予定.

・実施報告書が送付された. 決算の結果、余剰金が発生し3万程度還付予定.

・2024年大会（徳島県三好）：開催日は本年8月7日（水）～8日（木）の2日間（1泊2日）. 児童・生徒の参加費は8,500円の予定（参加者の宿泊費+飲食代を想定）. 市内在住の児童・生徒に対してのみ市からの補助を検討中とのこと. 大会収入は参加費の他に3学会からの負担金とノエビア助成金（申請中）を想定. ノエビア助成申請は実行委員会が行う. 大会プログラムを本年度内に作成予定.

・2024年度からの参加費は実費負担を原則としたいとの方針で計画している.

・2025年大会（御嶽火山の予定）：2月末に地元関係者も交えてオンラインミーティングを予定.

・2026年大会：開催地募集期限を過ぎたが応募がなかった. 期限を延長して募集する. 2025年2月までに決まれば問題ない. 地震を中心とするテーマで東北地方で開催することを想定し、地震学会が東北大関係者などと相談している.

5) 地質の日（矢部）

・街中ジオ散歩inTokyo「身近な地形・地質から探る麻布の歴史と湧水」の広報準備を進めている. 参加募集受付4/5-15. 5月19日（日）開催.

・地質の日オンライン一般講演会：5/12（日）のチラシ作成を進めている. 学会HP、地質の日事業推進委のポータルサイトで広報を行うほか、関連学協会に広報を依頼する予定. 講師2名（宍倉氏、卜部氏）より講演依頼を諸諾いただいた. タイトル案について、一般市民に誤解を与えないよう、講演内容を適切に表現したタイトルにするよう再検討する.

7. その他執行理事会の下に設置される委員会及び組織

1) 利益相反マネージメント委員会（中澤）

特になし

2) 若手育成事業検討WG（内野）

・選考委員会を3/11に開催し、2024年度研究奨励金支給者の選考を行なった. 結果を次回理事会へ上程する.

3) 表彰制度検討WG（中澤）

特になし

8. 理事会の下に設置される委員会

1) ジオパーク支援委員会（矢部）

特になし

2) 地学オリンピック支援委員会（坂口）

国内本選大会が3月10日-12日につくばで開催された. 参加63名. 10名が金メダルを獲得（うち女性3名）. 北京での国際大会はこの中

から4名が選考される。予選から2,000名余の参加者があった。支援委員会では予選問題をレビューする予定。

3) 支部長連絡会議 (杉田)

特になし

4) 地質災害委員会 (松田)

特になし

5) 名誉会員推薦委員会 (星)

・推薦委員会を3/4に開催し、3名の名誉会員候補者を選定した。この3名を理事会に推薦する。

6) 各賞選考委員会 (中澤)

・選考結果報告

リモート会議を計7回行い、選考を行った。選考結果を理事会に上程する。また、各賞選考のプロセスについて、次年度の委員会への申し送りおよび理事会への要望が寄せられた。

7) ジェンダー・ダイバーシティ委員会 (辻森)

特になし

8) 連携事業委員会 (中澤)

特になし

9) 法務委員会 (中澤)

特になし

10) 若手活動運営委員会 (桑野)

特になし

9. 研究委員会

1) 南極地質研究委員会 (委員長 大和田正明)

特になし

2) 地地質学研究委員会 (委員長 川村紀子; 杉田)

特になし

10. その他

1) 選挙管理委員会 (代理中澤)

・委員会を3/14に開催。理事選挙の開票を行った。

審議事項

1. 若手活動運営委員会巡検企画と学生会員への参加費補助について (下岡)

本年10月または11月に愛知県犬山市周辺の中生代付加体、岐阜県瑞浪市周辺の中新統と瑞浪市化石博物館見学 (または土岐花崗岩と東濃地科学センター見学) などを計画。日帰りバス貸切、参加32名で参加費8,000円程度/人を想定。バス代等の見積もりを精査して参加費を決定する。案内者は検討中。学生会員への参加費補助対象の巡検として承認した。

2. 大柳会員の柵山賞受賞記念講演について (高嶋)

行事委員より、昨年受賞記念講演会を急病で欠席した大柳良介会員のために、山形大会で再度講演の機会を設けられないかという検討依頼があった。執行理事会として承認した。大会スケジュールに配慮し表彰式と別日程とする場合、時間設定と周知の工夫が必要。

3. 2025熊本大会の巡検コースについて (高嶋)

熊本大会の巡検案が提出された。天草諸島の上部白亜系コースについては、潮位と案内者の都合上、プレ巡検で2泊3日 (御所浦島に宿泊予定) を予定。御所浦島へは海上移動となり、悪天候の場合は宿泊も難しい。これらのリスクについて事前に主催者側で検討しておく必要があるため、宿泊先を離島としない計画での再考を求めたい。

4. 令和6年度大学入試共通テストの地学関連科目に関する意見書 (坂口)

入試センターへの意見書を取りまとめ、近日中に送付予定。「地学」は昨年 (49.85点) よりも高い56.62点であり評価したい。「地学基礎」「地学」の両者とも良質な問題が出題されており評価したい。

5. Island Arc Awardの廃止について (辻森)

Island Arc awardは当初出版元のWileyから500ドルの賞金を拠出し共同名義で授与していたが、2年前より賞金の拠出はなくなり、学会単独での授与となった。地質学会として賞の主権を受け継いだが、論文賞と趣旨が重複していると考えられるため、論文賞に統合したい。理事会、総会に廃止を提案する。なお、Island Arc掲載論文を対象とした賞としてMost Downloaded Awardがある。この賞はWileyが単独で行っており、地質学会は関与していない。

6. 2023年度事業実績概要 (案) について

12月理事会以降に実施した事項について追記・微修正の上、4月理事会へ上程する。

7. 2024年度事業計画骨子 (案) について

令和6年能登半島地震対応、シニア会員の活躍の場検討、会員システムの周知について追記した。また出版活動の「専門部会等と協力して投稿数の増加に努める。特に各分野からの総説論文を増やし、学術誌としての存在感と注目度を高めるように努力する。」について、実現可能なより具体的な策を事業計画に盛り込むこととする。文言を最終修正の上、4月理事会へ上程する。

8. 理事会審議事項の確認

1) 名誉会員候補者の選出 (星)

2) 各賞受賞者の決定 (三田村)

3) 研究奨励金支給対象者の決定 (内野)

4) 「大地と人の物語 ~地質学で読み解く日本の伝承~ (仮)」出版企画提案 (天野)

5) 2023年度事業実績概要 (中澤)

6) 2024年度事業計画骨子 (岡田)

7) 2023年度決算概算 (亀高)

8) 2024年度予算案 (亀高)

9) 総会議案の決定 (中澤)

第1号議案 2023年度事業報告・決算報告・監査報告

第2号議案 代議員、理事および監事選挙結果報告

第3号議案 2024年度事業計画

第4号議案 2024年度予算案

第5号議案 名誉会員の選出

第6号議案 運営規則の変更 (Island Arc award) の廃止について

監事コメント

(岩部監事)

Island Arc誌のWileyとの次期更新 (2028年を予定) に向けて、他学会からも情報収集しながら、会員にとって不利益が生じないような対応を進めて頂きたい。

今年度から電子投票となった代議員選挙、会長副会長意向調査では、郵送投票であった前回と比べ大きく投票率が低下した。このことを重く考え、電子投票有りきではなく、会員にとって投票し易い方法へ改善されるよう検討して頂きたい。

以上

2024年4月1日

一般社団法人日本地質学会

会長 (代表理事) 岡田 誠

署名人 執行理事 中澤 努

2023年度第10回執行理事会議事録

日程: 2024年4月13日 (土) 10:00 ~ 12:00

【WEB会議】

出席: 岡田 誠, 杉田律子, 星 博幸, 中澤 努, 緒方信一, 内尾 (保坂) 優子, 内野隆之, 加藤猛士, 亀高正男, 小宮 剛, 高嶋礼詩, 辻森 樹, 松田達生, 矢部 淳, 山口飛鳥

監事: 岩部良子

欠席: 尾上哲治, 狩野彰宏, 坂口有人, 山本正司

事務局 澤木

*定足数 (過半数: 10) に対し、執行理事15名の出席

*前回23-9議事録案について、本執行理事会にて承認された。

報告事項

1. 全体的報告

・一般社団法人国土デジタル情報研究所 地質地盤情報の活用と法整備を考える会より、法人設立と会員継続 (協力会員) の依頼があり、要請通り承認された。

・宝石学会50周年行事に関しての地質学会からの祝辞依頼があり、承認された。

2. 運営財政部会 (亀高・加藤)

1) 総務委員会

<共催・後援依頼、他団体の募集、連絡等>

・第15回 (令和6年度) 日本学術振興会育志賞受賞候補者の推薦依頼があった (学会締切5/15) 【→ニュース4月号, geo-flash配信】

・2025-2026年開催藤原セミナー募集 (締切7/31) 【→ニュース4月号, geo-flash配信】

・役員就任挨拶 (石油資源開発株式会社: 代表取締役会長 藤田昌宏氏, 代表取締役社長 山下通郎氏)

・令和6年度運営体制、新年度挨拶 (産業技術総合研究所地質調査総合センター: セン

ター長 中尾信典氏ほか)
・科学教育研究協議会より、第70回全国研究大会いわて花巻大会(8/7-9)への後援依頼があり承諾した。

<会員>

1_今月の入会者:正会員2名(一般1, シニア1), ジュニア会員1名

正会員一般:中村将人
正会員シニア:内藤定芳
ジュニア会員:都筑暖和)

2_今月の退会者:正会員2名(一般1, シニア1)

正会員一般:柏木健司
正会員シニア:森 啓

3_今月の逝去者:1名 → 5. に前回理事会以降の逝去者氏名あり

正会員シニア(1名):石賀裕明(逝去日:2024年3月2日)

4_2024年3月末会員数

賛助:31, 名誉:34, ジュニア:4, 正会員:3032 [内訳 一般2030, シニア797, 学生205] 合計 3101 (昨年比-32)

5_前回(12/9)理事会以降の逝去者氏名:正会員シニア7名

下西繁義(逝去日:2023年1月5日), 野田浩司(逝去日:〃年7月14日), 澤田武美(逝去日:〃年12月7日), 八木下晃司(逝去日:〃年12月末?), 杉山 明(逝去日:2024年1月9日), 平野昌繁(逝去日:〃年1月16日), 石賀裕明(逝去日:〃年3月2日)

6_年度末退会者&除籍者【名簿回覧】

①2023年度末退会者(82名)

②2023年度末除籍者(88名)

7_永年会員顕彰者

70年4名, 60年5名, 50年40名, 40年58名を予定している。(2023年度第3回理事会議事録参照)

<会計>

特になし。

<その他>

特になし。

3. 広報部会(内尾・松田)

1) 広報委員会(内尾)特になし

4. 学術研究部会(辻森・尾上・高嶋・山口)

1) 行事委員会(高嶋・山口)

・2024山形大会:トピックセッション18件申込。一部修正依頼を予定。巡検は8コース。巡検案内書の執筆について未着工は1件(近月初稿提出予定)。

・2025熊本大会:9月14日~16日。プレ9月11日~13日, ポスト9月17日~18日。巡検コースは9コース(仮)で今後の予算計画行程計画を踏まえて9月の理事会までに確定する。

・2026金沢大会:開催日未定。

・2027年は関東を予定。

・今後の開催会場については, 未開催地域での開催が望ましいが, 各支部での検討だけでは難しいところもあり, 執行理事会からも会場選定についての支援をすることが良い。

・巡検案内書の編集工程の改善について, WGにて検討中。山形大会では執筆者の原稿を編集委員長だけでなくLOCメンバーも含めて複数の委員で編集を行っている。

2) 専門部会連絡委員会(尾上)

・専門部会から寄せられた意見(問題点)が紹介された。

→従来の専門部会MLが廃止され, メルマガ形式となったため双方向配信ができず部会員の情報交流に支障が出ている。加えて事務局に配信依頼を行う必要があり迅速性に欠ける。→後者については, 今後配信権限を各部長や担当者に付与するように現在作業中。

→学術大会のセッション編成が変更され, 同じ部会員による関連するセッションが重なるケースがある。プログラム編成時に配慮して欲しい。→可能な範囲で対応する旨行事委員長(高嶋)より回答があった。

3) 国際交流委員会(辻森・岡田)

特になし

4) 地質標準化委員会(内野)

特になし。

5. 編集出版部会(狩野・小宮)

1) 地質学雑誌編集委員会(小宮)

(1) 編集状況報告(2024年4月10日現在)

・2024年投稿論文:18(昨年比-4)[内訳] 論説8(和文8), 報告2(和文1, 英文1), レター2(和文2), フォト1(和文1), 巡検案内書5

・査読中:22, 受理済み:3, 入稿・校正中:8, 130巻公開済み6件(88ページ)

・一般的な投稿数は減少傾向にある(巡検案内書は除く)。理事会でも投稿を呼びかける。

2) Island Arc編集委員会(狩野)

(1) 編集状況報告

・Island Arc編集委員会新規委員1名追加:長谷川 卓会員(金沢大学)専門:古生物) 任期:~2024年6月総会まで。理事会で承認予定。

6. 社会貢献部会(坂口・矢部・内野)

1) 地質教育委員会(坂口)

特になし

2) 地質技術者教育委員会(坂口)

特になし

3) 生涯教育委員会(矢部)

・ニュース誌の連載を進めている。4月号は磐梯山噴火記念館の佐藤 公館長に寄稿いただいている。

4) 地震火山地質子どもサマースクール(星)

特になし

5) 地質の日(矢部)

・「地質の日」に向けて各支部を含めて様々な行事が企画されており, 学会ホームページでの広報を進めている。

・オンライン一般講演会(5/12)について, 広報を関連学協会に依頼済み。

・5/19実施予定の「街中ジオ散歩」については, 4月15日まで参加者募集中。学会SNS

でも発信済み。

7. その他執行理事会の下に設置される委員会及び組織

1) 利益相反マネージメント委員会(中澤)
特になし

2) 若手育成事業検討WG(内野)
特になし

3) 表彰制度検討WG(中澤)
特になし

8. 理事会の下に設置される委員会

1) ジオパーク支援委員会(矢部)
特になし

2) 地学オリンピック支援委員会(坂口)
特になし

3) 支部長連絡会議(杉田)
特になし

4) 地質災害委員会(松田)
特になし

5) 名誉会員推薦委員会(星)
特になし

6) 各賞選考委員会(中澤)
特になし

7) ジェンダー・ダイバーシティ委員会(辻森)
特になし

8) 連携事業委員会(中澤)
特になし

9) 法務委員会(中澤)

特になし

10) 若手活動運営委員会(桑野)

特になし

9. 研究委員会

1) 南極地質研究委員会(委員長 大和田正明)

特になし

2) 法地質学研究会(委員長 川村紀子; 杉田)

特になし

10. その他

1) 選挙管理委員会(代理中澤)

特になし

特になし

特になし

審議事項

1. 地質の日イベント「街中ジオ散歩」協同開催に関する協定書(矢部)

「街中ジオ散歩」は, 2012年の初回より日本応用地質学会と共同開催で運営しており, 双方の役割を明文化するため協定書の作成を進めた。原案について承認された。一部の文章について正確を期すために調整する。

2. 理事会資料の確認

監事コメント

(岩部監事) 学術大会会場費について高騰傾向にあり大会運営財政を圧迫する要因となっている。このことは大会参加費にも関わるため今後も十分検討の上, 今後も大会が円滑に行われるように進められたい。

以上

2024年5月18日

2023年度第11回執行理事会議事録

日 程：2024年5月18日（土）13:00～17:00
【WEB会議】

出席：岡田 誠、杉田律子、中澤 努、緒方
信一、内尾（保坂）優子、内野隆之、尾上哲
治、加藤猛士、狩野彰宏、亀高正男、小宮
剛、坂口有人、高嶋礼詩、辻森 樹、松田達
生、矢部 淳、山口飛鳥

監事：岩部良子

欠席：星 博幸、山本正司

事務局 堀内

*定足数（過半数：10）に対し、執行理事17
名の出席

*前回23-10議事録案について、本執行理事
会にて承認された。

報告事項

1. 全体的報告

・特になし

2. 運営財政部会（亀高・加藤）

1) 総務委員会

<共催・後援依頼、他団体の募集、連絡等>
・青少年のための科学の祭典2024（24/6/8-
25/1/26；全国各44会場）への後援依頼が
あり、承諾した。

<会員>

1. 今月の入会者：正会員学生9名（単年度2
名、2年バック6名、3年バック1名）

藤井雄大、市村 健、浦川真登、伊藤禎宏、
萩野峻右、大嶋俊介、檜垣悠斗、小林和哉、
萩野 穰

2. 今月の退会者：正会員一般2名

遠藤 拓、谷脇由華

3. 今月の逝去者：なし

4. 2024年4月末会員数

賛助31、名誉34、ジュニア会員5、正会員
3042 [内訳：一般2008、シニア854、学生会
員18] 合計3112（昨年比-39）

<会計>

・第2回研究奨励金を5/9付で採択者（6名）
に支給した。

<その他>

・規則の整理について：2024年度の目標：事
業部会に属する委員会の規則を整備する。

・業務監査を5/15（水）に実施した。2023年
度の事業内容と財務状況（決算）、2024年
度の事業計画と予算案、理事会及び執行理
事会の活動状況や会員への周知実績、事務
局の勤務状況などを監事に確認頂いた。監
事より特に選挙の方法について改善するこ
とが必要との意見があった。電子投票の周
知徹底をはかる。

・会員システムについて、4/23（火）に業者
と打合せを行い、改修作業を進めている。

→支部、専門部会のML配信機能：各2名
程度の管理者（配信）権限を設定、近日
運用開始予定。従来のMLのように意見
交流（相互配信）はできない。現システ
ムによる大人数の相互配信機能は難しい
ため、ジオフラッシュ等の活用で代用し
てもらいたい。

→画面の見やすさ（フォント、画面サイ
ズ、視認性等）について改善を進める。

→サーバ作業のため、6/12（水）-14（水）
は会員システムの利用を一時停止する。
メルマガ、ニュースで周知する。

3. 広報部会（内尾・松田）

1) 広報委員会（内尾）

地質の日のプレスリリースを5/1付で行っ
た。

4. 学術研究部会（辻森・尾上・高嶋・山口）

1) 行事委員会（高嶋・山口）

・2024山形大会

→講演要旨の締め切り延期：6月19日→6月
26日に変更。プログラム編成の行事委員
会を6月29日（土）に開催。9月初めに大
会が行われるため、締切が早くなってい
る。

→巡検案内書（未投稿1、受理3、査読中1、
査読への対応中3）

→会場費の減免措置については5月22日頃
に明らかになる予定。

→企業説明会について6月に広報したいの
で、開催会場スペース等について今後
LOCと確認する。

・2025熊本大会

→コンベンションの助成金を申請予定。

→懇親会は生協で実施予定。

・2026大会：会場は金沢大学を予定。

・ショートコース（山口）

→次回、第11回ショートコース「微化石」
（講師：松岡 篤、林 広樹）を7/21
（日）開催予定。ニュース誌5月より広報
開始。

2) 専門部会連絡委員会（尾上）

特になし

3) 国際交流委員会（辻森・岡田）

特になし

4) 地質標準化委員会（内野）（→審議事項 へ）

特になし

5. 編集出版部会（狩野・小宮）

1) 地質学雑誌編集委員会（小宮）

(1) 編集状況報告（2024年5月13日現在）

・2024年投稿論文：22（昨年比-2）[内訳]
論説9（和文9）、報告2（和文1、英文1）、
レター3（和文3）、フォト1（和文1）、巡
検案内書7

・査読中：19、受理済み：4、入稿・校正中：
7、130巻公開済み12件（168ページ）

(2) 編集委員の交代

堀江委員→新正裕尚（東京経済大）（→2024
年第1回度理事会審議事項へ）

2) Island Arc編集委員会（狩野）

(1) 編集状況報告

・前月とあまり変わりなし。IFは（2022-
2023）表示のまま更新されていない。

(2) 編集委員長、編集委員の交代予定

編集委員長（EIC）交代：辻森 樹→市山
祐司（千葉大）、狩野彰宏→長谷川 卓（金
沢大）。次期編集委員会メンバーは現在選定
中。新EICを含め12月理事会にて提案・承認
予定。今後の執行理事会での編集報告等は引
き続き編集委員として残留する辻森理事に担
当頂く。

6. 社会貢献部会（坂口・矢部・内野）

1) 地学教育委員会（坂口）

特になし

2) 地質技術者教育委員会（坂口）

・委員長交代：天野一男→竹内真司（日本
大）

・2024年度JABEE定時社員総会&創立25周
年記念大会（6/5開催）の案内があった。
出欠返信期日5/30

3) 生涯教育委員会（矢部）

・5/9に委員会をオンライン開催し、各担当
の進捗状況を共有した。

・ニュース連載記事の「博物館で地学を学ば
う！」を継続中。5月号は秋田大学附属鉱
業博物館・西川 治会員、6月号は東北大
学総合学術博物館・高嶋理事

・委員体制の変更。今期末で退任：川端委員
長・平田理事。新委員：笠間友博理事（箱
根ジオパーク）、白井孝明氏（萩ジオパー
ク）

4) 地震火山地質こどもサマースクール（星）

特になし

5) 地質の日（矢部）

・惑星地球フォトコンテスト第15回ほか入選
作品展示会を東京パークスギャラリーで開
催した（5/1-12）。

・オンライン一般講演会「令和6年能登半島
地震による地殻変動と地盤災害」を5/12
（日）に実施し、YouTubeLiveで同時配信
を行った。当日の最大視聴数は191人。現
在の視聴数は1572回（5/16現在）。講演会
に関して、プレゼント付きのアンケートを
実施している。現在60件のアンケートを頂
いている。

・街中ジオ散歩in東京を5/19（日）に東京麻
布台で開催する。

・街中ジオ散歩共同開催に関する協定書を日
本応用地質学会と取り交わした。

7. その他執行理事会の下に設置される委員会 及び組織

1) 利益相反マネージメント委員会（中澤）

特になし

2) 若手育成事業検討WG（内野）

・関東支部主催の城ヶ島巡検（6/8-9）およ
び清澄フィールドキャンプ（8/19-24）に
ついて、学生会員への参加費補助適用の申
請があった。収支案、募集案内文を一部修
正の上、承認した。

3) 表彰制度検討WG（中澤）

特になし

8. 理事会の下に設置される委員会

- 1) ジオパーク支援委員会（矢部）
 - ・委員の退任：平田大二委員
 - ・委員の追加：岩井雅夫（高知大学海洋コア国際研究所）（→2024年第1回理事会審議事項へ）
- 2) 地学オリンピック支援委員会（坂口）
 - 特になし
- 3) 支部長連絡会議（杉田）
 - 特になし
- 4) 地質災害委員会（松田）
 - ・防災学術連携体の7ヶ月報告会について、地質学会からの発表者を現在調整中。発表申込締切6/10（月）。最近の新しい知見を発表された方等、調整を進めて行きたい。
- 5) 名誉会員推薦委員会（星）
 - 特になし
- 6) 各賞選考委員会（中澤）
 - 特になし
- 7) ジェンダー・ダイバーシティ委員会（辻森）
 - 特になし
- 8) 連携事業委員会（中澤）
 - 特になし
- 9) 法務委員会（中澤）
 - 特になし
- 10) 若手活動運営委員会（桑野）
 - 特になし
9. 研究委員会
 - 1) 南極地質研究委員会（委員長 大和田正明）
 - 特になし
 - 2) 法地質学研究会（委員長 川村紀子：杉田）
 - 特になし
10. その他
 - 1) 選挙管理委員会（代理中澤）
 - 特になし

審議事項

1. JIS 0205改訂（追補）に向けた地質年代表記の修正について（内野）

5月開催のJIS原案作成委員会で、地質年代の一部のカタカナ表記について、実際の発音に則した表記に変更すべきとの提案があり、本学会にこの修正提案への見解を伺いたい旨の連絡があった。修正提案を確認し妥当な提案と判断されることから、学会としてもこれを受け入れ、日本語版層序表での表記もこれに従い変更することにした。またその旨を作成委員会へ回答する。なお、その他の時代についても一部カタカナ表記を変更したほうがよいと思われるものもあり、今後改めて一通り検討することにした。
2. 総会の議事進行について

6月8日開催。議案内容、報告者等を確認した。
3. 2024年度第1回理事会議事の確認

6月8日総会終了後開催。議案内容を確認した。なお、各賞選考委員の選出については第2回理事会（8/31予定）で行う。
4. 支部例会等の講演要旨のJ-STAGE掲載に

ついて（杉田）

一部の支部より、支部例会等の講演要旨のJ-STAGE等公開できる掲載の希望が寄せられた。学術大会講演要旨に準じて公開する方向で進めたい。実際の掲載作業はJ-STAGEのデータ仕様やルールに沿って各支部にて対応をお願いする。

監事コメント

（岩部監事より）

監査を行い、コロナ後はハイブリッドでの支部行事も複数あり、活動が盛んになってきたと感じている。今後も、全国の会員が参加しやすく、更に活発な支部活動になるよう進めて頂きたい。また、会員数減少による収入減少は理解できるが、収入減少を理由として会員サービスが低下しないように工夫を継続して頂きたい。

岡田会長コメント

今期の理事、監事、代議員、事務局の皆様、また活動にご尽力いただいた皆様、大変お疲れさまでした。心から感謝申し上げます。先ず、新しい選挙システムは、より会員が容易に知り得てアクセスしやすいシステムへの改善について次期執行理事会にお願いしたい。また、関連学協会との相互協力の発展についても、今後も変わらず進めて頂きたい。

以上

2024年6月20日

一般社団法人日本地質学会
会長（代表理事）岡田 誠
署名人 執行理事 中澤 努

一般社団法人日本地質学会倫理綱領

2003年9月19日 日本地質学会総会制定

2009年12月5日 一般社団法人日本地質学会制定*

日本地質学会の会員は、科学的真理を明らかにする事を目的として、誠実かつ真摯に地質学および関連科学の研究・教育および調査を行う。その成果を広く社会に公表することにより地質学および関連科学の進歩普及を図り、もって社会の発展と人類の福祉に貢献する。会員は、基本的人権を守り、良識かつ品位のある行動をとる。

1. 科学者としての倫理：会員は、専門知識の向上および地質学と関連科学の発展を目指して自己研磨を図る。研究と調査においては、法を遵守し、社会的良識に従って行動する。科学的事実に対しては常に謙虚、誠実でなくてはならない。研究成果と技術上の知見を広く社会に公表し、公表にあたっては先人と他者の業績を尊重する。

2. 知的交流の確保：会員は、国際交流や他分野との交流を進めることを通して学術の向上を図るとともに、研究成果と技術上の知見が科学的に広く吟味・検証されるよう努める。

3. 人類と社会への責務：会員は、その専門知識と技術を適切に活用し、研究と調査の成果を広く社会に提供することを通して社会の発展と人類の福祉に貢献する。

日本地質学会

4. 地球環境への責務：会員は、地球システムの諸現象についての専門家として、地質災害の予知と防止、地球環境の将来予測、資源の適正な活用に関する情報を提供するとともに、専門知識を活かして環境の保全と改善に努める。自らの研究と調査の実施にあたっては環境への影響を最小限にするよう配慮する。

5. 次世代への責務：会員は、地質学と関連科学における学術と技術の継承と発展、次世代を支える人材の育成を図る。研究や調査の成果物、重要な露頭や標本などの科学的遺産の保全に努める。

*2009年12月5日法人理事会において、一般社団法人日本地質学会倫理綱領として全文引継を決定。



5月10日を中心に全国でイベント開催

地質の日事業推進委員会事務局
国立研究開発法人 産業技術総合研究所 地質調査総合センター
E-mail : geologyday-jimu-ml@aist.go.jp
Web : <https://www.gsj.jp/geologyday/>

地質の日事業推進委員会：(一社)日本地質学会、(一社)日本応用地質学会、(一社)日本鉱物科学会、資源地質学会、日本堆積学会、日本古生物学会、日本第四紀学会、日本情報地質学会、(独)国立科学博物館、全国科学博物館協議会、神奈川県立生命の星・地球博物館、(国研)産業技術総合研究所、日本科学未来館、(地強)進研エネルギー・環境・地質研究所、(公社)東京地学協会、(一社)全国地質調査業協会連合会、(NPO 法人)日本ジオパークネットワーク、大阪市立自然史博物館、(公財)阿蘇火山博物館、兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科 (著作権：2024年2月現在) 撮影地：島根県日御碕 題字：高橋須葉